

奉天——大連——門司（同上約六十時間）

滿鐵の支線には、旅順・撫順・營口・煙臺の四線がある。

滿鐵は鐵道の外、大連港の經營や、鑛業（撫順・鞍山等）を營み、市街地・學校・病院等を經營し、農業や工業の試験場を設けて各種の研究をなし、滿蒙の經濟・文化の開發に盡すところが頗る大きい。

**東支鐵道** は外國所屬の鐵道が支那領土内に敷設せられた最初のものである。この敷設權を得たのは日清戰役の三國干涉の報酬と見るべきものであつて、明治二十九年のカシニエ（當時の駐清露國公使）條約によるのである。かくして露國はシベリヤ鐵道の黑龍江畔迂回による經費と時間との節約をなし、且北滿に其の勢力を扶植することを得たのである。

更に明治三十一年關東州の租借に伴ひ、ハルビンとの間に支線敷設權を得、明治三十五年には本支線とも全通したのであるが、日露戰役によりこの支線は寬城子までになつた。寬城子驛は我が長春驛の北方一哩餘にあるが、我が長春驛新設され、南滿・東支・吉長三線の連絡驛（何れも乗換）となり、且滿鐵の附屬地百五十萬坪に新市街經營さるゝに及び貨（大豆其他の農産物）客の大集注點となつた爲め、寬城子驛は淋れた。

東支鐵道は現在東部線（哈爾濱・ポグラニチナヤ間三三五哩）西部線（哈爾濱・滿洲里間五八一哩）・南部線（哈爾濱 寬城子間一四七哩）より成つて居る。

其の他の陸上交通機關としては電車の發達は未だ著しくない。上海・天津・北京・大連に見るのみである。上海の電車は頭等と三等の二階級があつて、三等電車には「三等。大衆可坐。廉價快穩」と箱の外に大書してある。

人力車も市街地では盛に用ひられ、その賃錢の安いことは驚くばかりである。田舎に入ると轎（カゴの一種）や轎車（第四十八圖）などもあるし、又一輪車は多くは貨物の運搬用として廣く用ひられる。濟南の町などでは盛に用ゐられてゐて、

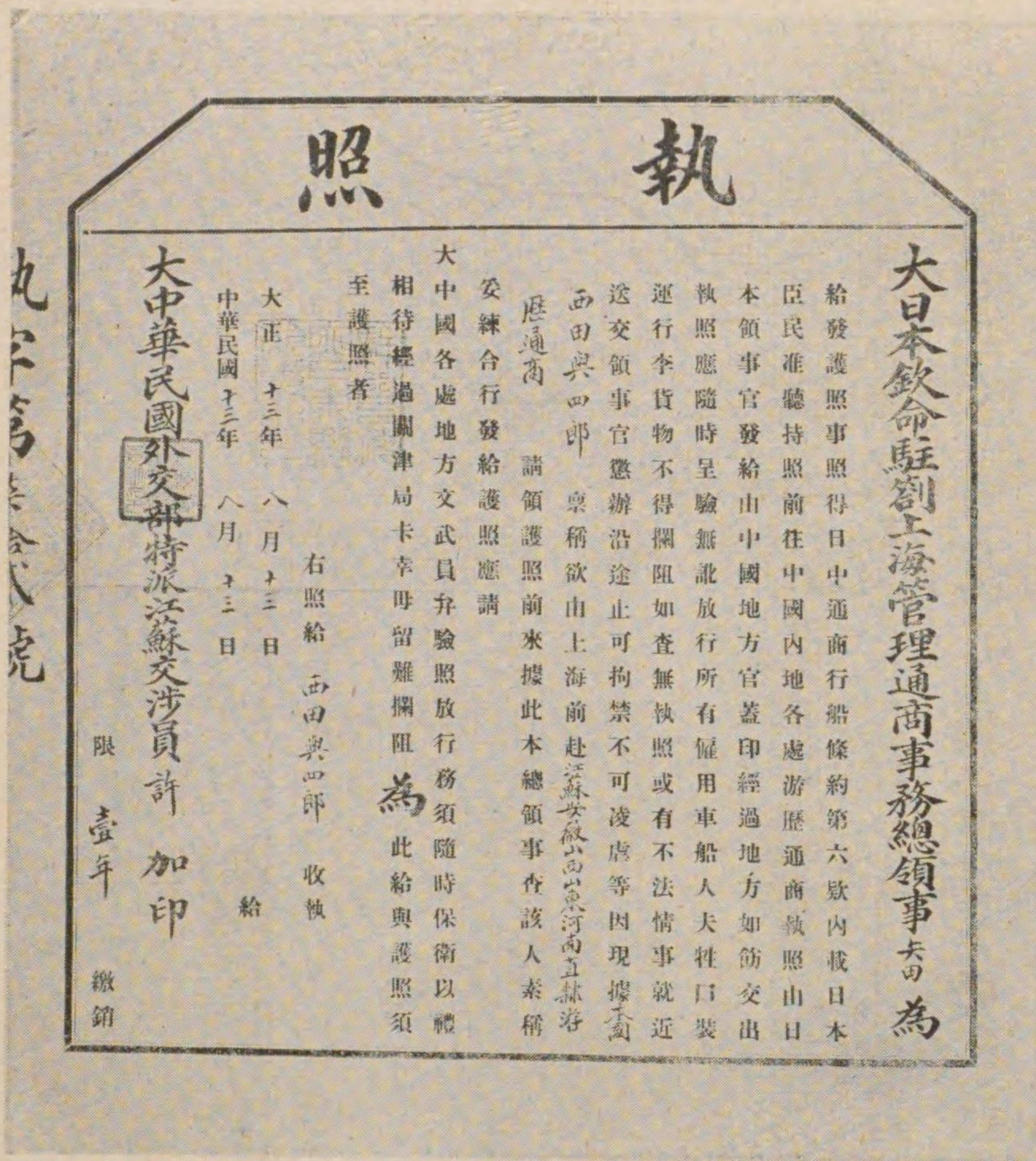


石道を軌り行く一種の音は今も私の耳底に残つてゐる。

水運については既に述べたとほり、河運は揚子江本支流が第一である。この東西の大水路あるがために、その沿岸には東西の鐵道線は、滬寧線の外に發達してゐないのである。

海運について一言すると、支那の諸港に一年間に出入した汽船の隻數に於ては、支那船が第一位であるが、噸數については英船が第一である。日本船之につき、米・佛其他の諸國船が更に之に次ぐ。海運の大中心は前に述べた上海・天津・廣東と大連・香港の諸港である。

我國が支那に航路を開いたのは明治八年上海航路を第一とし、其後北支那・滿洲との關係次第に密となるにつれ、上海航路よりも北支那航路に多くの日本汽船を見る事となつた。南支那沿岸諸港へは臺灣の高雄・基隆から航路が開かれて居るが日本内地からは歐洲航路・南洋航路・濠洲航路の船が香港に寄港する位である。



第四十九圖 護 照

支那内地を旅行するには護照（旅券）を在支日本領事館から下附されて携行せねばならぬ。これは著者が先年支那旅行の振出地上海で矢田總領事から下附され、旅行中常に携帯して居つたものである。（實物横一尺四寸、縦一尺五寸）



## 政治

### 政權の推移

支那は古來君主專制國である。共和國になつたのは西曆一九一二年（大正元年二月十一日）で、支那最後の君主たる宣統帝が退位した時である。約三百年間續いた清朝が絶えて共和政治に變つたのである。支那の民國元年は丁度日本の大正元年に當り本年は民國の十七年になるのである。民國成立以來十七年間の政治史は一言で云へば政争の連續であつて、彼の袁世凱が始めて大總統となつてから、黎元洪・馮國璋・徐世昌と度々の交迭はあつたが、夫等のことは之を略し、最近の政情について著しいものを手短かに述べることにしよう。

先づ注意すべきは、民國六年八月に廣東軍政府成つて南北の分裂を來たしたこ



とである。廣東軍の首領は孫文（孫逸仙、中山先生ともいふ）である。即ち國民黨の首領であつて、三民主義を標榜した。三民主義とは民族主義・民權主義・民生主義の三つを指していふ。民族主義とは民族自決のこと、民權主義とは政治上のデモクラシーのこと、民生主義とは經濟上のデモクラシーのことをいふのである。此の國民黨が南方に獨立し西南五省（廣東・廣西・貴州・雲南・四川）が民國六年以後北京政府の圏外に立つてゐた。北京に於ては其の間政争を繰返し、時には南北平和をはかつたが成らなかつた。

さて民國十二年十月十日正式に憲法が發布せられた。此の日を双十節と稱して國民の祝日に定めた。丁度アメリカ合衆國で七月四日をナショナル・ホリデー national holiday とするのと同様である。此の憲法制定によつて直隸派の曹錕が徐世昌に代つて大總統になつた。此の際注意すべきことは南方の五省が少しもこれに干與しなかつたので、此の憲法を認めないといふことである。滿洲に於ける張

作霖は表面此の憲法を是認して居たが、内心は不平滿々であつた。随つて平和時代が永續しなかつたのである。

即ち翌十三年九月から十一月に互つて奉直戦が始つた。北京の曹錕と奉天の張作霖との争である。大總統曹錕の下に副總統格の吳佩孚が自ら一介の武人を以て任じ洛陽に居つた。私は當時支那に旅行中であつたので、八月末に吳佩孚に面會の機を得た。彼は大に歡待し吾々の爲に宴を張り揮毫をも惜しなかつた。思ふに日本は奉天派には理解を有するも、直隸派には誤解があるから此の誤解を解くと共に日本の好意を求めんがためでもあつたであらう。此の奉直戦には吳佩孚が敗北した。それは吳が洛陽から北京に入り、更に兵を山海關方面に進めた留守中に北京で馮玉祥がクーデター Coup d'état（武力を用ひて急に政變を行ふこと）を行ひ、大總統曹錕を辭職せしめた。

そこで當時天津に閑居して居つた段祺瑞が臨時執政となつた。此の人は廣東政



府の孫文とも仲好く、奉天派にもよし、直隸派にも悪しくないで、何れにも當りさわりが無い。大總統は議會の決議を経なければぬから、段祺瑞はその議決を経る暇がないので、假に執政となつたのである。名は臨時執政であるけれども、事實上は大總統になつたわけである。そして此の段祺瑞をあやつるものは、馮玉祥及び張作霖の二人である。從來の憲法は廢止の形になり、南北相一致して善後會議を起した(翌年二月から四月まで)。孫文は廣東から遙々北京に來たが、この會期中に死んだので、南北平和もこの會議も效少く終つた。

然るに民國十四年五月三十日上海に南京路事件が起つた。これは上海の共同租界南京路に於て示威運動中の群集に對し、警察官が發砲して死傷者を生ぜしめた騒ぎである。これを世に五卅事件といふ。つゞいて各地に排外運動が起つたので、列國はワシントン會議に基づく關稅會議を北京に開くこととした。

抑々支那が列國に對し條約上不對等の點が二つある。其の一は治外法權であつ

て、支那國在留の外人には支那の國法で裁判出來ない。他の一は稅權の不對等即ち不對等なる關稅である。

さて關稅には國定稅率と協定稅率との二種がある。前者は一國の自主權により適宜定めるもので、後者は相手國と協定して定めるものである。更に協定稅率には雙務的のものと片務的のものとの二種がある。前者は相互交換的のもので自主權を傷けないが、後者は強制的のもので自主權を傷けてゐるものである。支那は列國に對し、この片務的協定稅率によつて通商條約を結んでゐるのである。日本も外國とはじめて通商條約を結んだ安政條約は、この二つの不對等の條件をもつた條約であつたのを、治外法權は日清戰役後、稅權は日露戰爭後回復したのである。又關稅には從價稅と從量稅とあるが、支那の現行關稅は凡て從價五分となつてゐる。

然るに同年十月浙江省の督辦孫傳芳が此の關稅會議に反對を唱へ軍を起したの



で、これから又内亂がはじまつた。直隸派の先鋒孫傳芳と共に直隸派は揚子江流域から奉天派を北支那に逐ひ拂つた。加ふるに奉天軍中には郭松齡の離反があつたので張作霖は遂に奉天に退居するに至つたが、郭松齡の戦死によつて再び奉天派は勢力を盛り返し、又直隸派とも妥協することになり、張作霖と吳佩孚と共同して政治を行ふやうになつた。然るに翌十五年四月二十日に段執政は遂に辭職し、關稅會議も七月に至つて中止することとなつた。段執政辭職後の政治は張作霖が事實上の首腦で國務院總理が政務を執行することとなつた。

同年七月の頃から廣東軍が北伐軍を起して漸次北進し、十月十日には遂に武昌を占領した。これがために揚子江流域が又大に混亂したのである。そこで十月三十日張作霖が安國軍總司令に就任して、揚子江流域の廣東軍を討伐することになつたが、廣東軍(國民軍)は益々勢を逞ふし、民國十六年一月四日には漢口の英租界を占領し、同六日には九江の英租界を占領し、三月二十一日には上海を占領

し、同二十四日には南京を占領し、揚子江流域は全く南軍の占領するところとなつた。そして四月十八日には南京で國民政府建都式を擧げたのである。

一體支那では金さへあれば傭兵をしたり敵兵を買収して幾らでも兵士を得ることが出来る。傭兵の場合には招兵と記した旗を立て、募集して歩くのである。それで軍用金のあるものが勝者と成り得る状態である。南軍はロシアから軍資を得てこの活動をしたのである。

五月になつてから南軍が更に江を越えて北伐に向つた。月末には津浦線・京漢線と隴海線(海蘭線)との交叉點で軍事上重要な鄭州・徐州の兩地を占領した。當時濟南府には我が日本人が多數居住して居たから、其の危難援護のために、我が軍の山東出兵が實現したのである。六月十八日には張作霖が大元帥に就任した。當時徐州及び鄭州はなほ南軍に占領されて居たが、北軍の勢力はそれから次第に盛り返したので、南軍は遂に揚子江畔に退却し、八月十三日南軍の主將蔣介石は



野に下つて日本に来てしまつた。

京漢線の鄭州は反奉天派の馮國祥軍が引きつづいて支持してゐるし、久しく不明の態度を持して居つた山西督辦閻錫山が遂に奉天派に宣戦したので、京漢線方面の奉天軍は側面をつかれる恐れがあるので黄河以南に下る事ができない。十一月十日蔣介石再び日本から上海に還り、當時南京と漢口とに二分して内争して居つた國民派の渦中に投じ、遂に南京派は漢口から唐生智を追出して之を占領した。その後この新武漢派は南京派から分立の傾向を持つて本年に入つた。

以上の如く支那の内亂は昨年以來益々甚しくなるばかりである。今その形勢を大觀すると滿洲から直線・山東を支持する奉天派（首腦は張作霖）に對し、揚子江流域以南を支配する國民派があり、而もその統一が完全でないし、山西臺地には閻錫山が據つて居るし、河南・陝西方面には馮玉祥が居る。今後の形勢の推移は今俄に豫斷しがたい。ともかく内亂が甚しくなつて困るのは多數の良民である。誠に隣邦のために悲しむべきことである。

### 政治組織

中央には大總統・副總統を置くことになつてゐるが、目下缺員である。其の下に國務院があつて、總理と國務員がある。國務員は各部總長が之に任ぜられる。丁度日本の内閣に當る。行政事務は九部で行ふ。各部は我が各省にあたる。外交部・内務部・財政部・陸軍部・海軍部・司法部・教育部・農商部・交通部これである。其の各部に總長が居て之を統轄してゐる。

地方は二十二省には各々督辦・省長を置き、前者は軍政、後者は民政を掌る。省は數道（尹を置く）に分れ、道は又數縣（知事を置く）に分れてゐる。京兆特別區域には尹を置く。これは民政のみを司り北京附近に設けるもので、丁度アメリカのワシントン附近がコロンビヤ區となつてゐるのに倣つたものである。

蒙古・青海・西藏を統治するためには、北京に蒙藏院があり、之に總裁を置く。



蒙古は外蒙古と内蒙古とに分れ、外蒙古は民國十一年以來ロシアの支持で蒙古國民共和國となり、内蒙古は土人の自治で若干の盟（長がある）に分れ、各盟には更に若干の旗（札薩克ジャサクがその長である）に分れてゐるが、しかし、その土地は大部分滿洲三省・新疆省に入り、又特別區域となつた。特別區域は熱河・察哈爾・綏遠の三であつて各都統を置く。

青海は寧海鎮守使之を治め、甘肅省の西寧に駐在して居る。

西藏には辨事長官が置かれて首府の拉薩に居る。西藏の東から四川省西部にかけて川邊特別區域が設けられ、鎮守使が打箭爐に居つて統治して居るのである。

## 諸外國との關係

西紀一五一七年ポルトガル人フェルニア オペレッツ デアンドラードがポルトガル船及び馬來船八隻を率ゐて廣東に來航して以來ポルトガル人は沿岸各地に居留地を設けて盛に貿易を營んだが、後追はれて澳門によつた。其の後第十七世紀には主としてオランダ人、第十八世紀には主としてイギリス人が支那沿岸に現れたが、始めは、澳門及廣東に於て貿易を許されたのみであつたが、阿片戰役（一八三九―四二年）以後遂に從來の鎖國主義敗れ南京條約により香港を割き、廣州・厦門・福州・寧波・上海の五港を開かした。香港・上海これより次第に繁榮を加へた。英佛と清との戰爭（一八五六―六〇年）の結果九龍半島を英に割かしめ且牛莊（營口）・登州（芝罘）臺灣（基隆・淡水）潮州（汕頭）瓊州（海南島）九江・漢口の



七港を開かした。かくて從來南支那沿岸に限られた貿易港は揚子江流域及び北支那に進み、英國の支那に對する貿易關係は益々優越な地歩を占めるに至つた。英國は更に芝罘條約（一八七六年）により新に温州・北海及び蕪湖・宜昌を開かせ、又西藏に探檢隊を送り得ることになつた。

佛蘭西は第十八世紀に於て英國と印度に於て角逐して敗れ、又第十九世紀の初め内亂相次ぎ力を海外に用ふる事が出来なかつたが、第十九世紀後半に至り印度支那半島に勢力を得、更に清國と戦ひ（一八八四—五年）安南の宗主權を支那から奪ひ、雲南・廣西二省に老開・諒山・蒙自・蠻毛・龍州・雲南・桂林の諸市を開かしめ西南方面から支那に迫つた。

露西亞は第十六世紀末頃からシベリヤ侵略を初め、第十七世紀中葉には既に黒龍江畔に達し、清と國境問題を定め（一六八九年ネルチンクス條約）、爾來北境（新疆・外蒙古・北滿洲方面）から支那に迫つた。

然るに日清戰役により支那の實力暴露せられ、列國の壓迫一時に加はり、數年を出でずして次の如く各種の利權を列強が獲得することとなつた。

このときは從來の英露佛三國の外日・獨兩國も之に加はつたのである。

英吉利——緬甸鐵道の延長權。威海衛（明治三十一年七月一日から十五年間）及香港附近（三十一年六月九日から九十九年間）租借。揚子江流域不割讓。上海南京間の鐵道布設權。山西・河南地方の鑛山探掘權。北京・山海關間の鐵道出資權。露西亞——東清（東支）鐵道敷設權。關東州租借權（明治三十一年三月二十七日から二十五年間）、東清鐵道支線敷設權及び沿線鑛山探掘權。京漢鐵道出資權。佛蘭西——滇越鐵道敷設權。雲南・廣東・廣西三省の鑛山探掘權。海南島及び雲南・廣東・廣西三省の不割讓。廣州灣の租借（明治三十一年四月二十二日から九十九年間）。

獨逸——膠州灣の租借（明治三十一年宣教師二人殺された結果。明治三十一年



三月六日から九十九年間。山東鐵道敷設權及び沿線の鑛山採掘權。日本——福建省不割讓（明治三十一年四月）。

以上の如き列國の利權爭奪の反動として支那内部の覺醒が起つた。（一）戊戌の政變（明治三十一年康有爲の變法自疆）、（二）憲政運動（明治四十一年立憲政をとる詔が出た）、（三）革命亂（明治四十四年武昌）の如き之である。又一方排外熱盛に起り、（一）北清事變（明治三十三年）、（二）外貨排斥等となつた。又外國側からも支那保全運動が起つた。即ち明治三十三年米國の唱導した「支那領土の保全」「門戶開放」「機會均等」竝に日英同盟（明治三五年・三八年・四四年・大正一二年）之である。日露戰役に於ては滿洲に於ける露國の勢力を壓迫して我が國の勢力を茲に扶殖すると共に支那領土の保全を保證し、日佛（明治四十年）・日米（明治四十年一年及び大正六年）・日露（明治四十年・四十三年・大正五年）間に協商を遂げた。爾後支那に於ける利權の競争は領土的利權よりも經濟的利權を主とすることとな

つた。然るに大正十年十一月から翌年二月に互るワシントン會議の結果は、列國共に支那に於ける利權若干を返還するに至つた。

今支那に於て列國の有する利權の主なものを擧げると次の如くである。

- （一）、一般的（均霑的）利權 各條約國が同時に有する全然同一内容の利權。
  - 1、治外法權 在支外人は支那の裁判權の支配を受けずして、各自國の法律により自國官吏の裁判を受け得る權。
  - 2、關稅の制限 五分の從價稅率による。
  - 3、内水航行權 但、松花江及び黑龍江は例外で露國船のみ航行し得る。
  - 4、駐軍權 北清事變後北支那に列國駐軍する。
  - 5、租界行政權 租界（居留地）には共同租界（上海の如き）と專管租界（天津及び上海の一部の如き）とがあるが、茲には支那の統治權が及ばぬ。
- （二）、特殊的（獨占的）利權



- 1、租借地 主權は支那にあるが、統治權を持たない地域で、現在は關東州（日本）、威海衛・九龍附近（英）、廣州灣（佛）であるが、威海衛・廣州灣は適當の機會に之を支那に還附することが約された（ワシントン會議の際）。
- 2、鐵道に關する利權 南滿洲鐵道（日）・東支鐵道（露）・廣九鐵道（英の租借地内にある部分）・滇越鐵道（佛）、東支鐵道の所屬が問題となつて居る外、夫々日・英・佛の所有である。
- 3、産業に關する利權 鑛山（撫順の如き探掘權あるもの、又は本溪湖の如き日支合辦のもの）・森林（鴨綠江探木公司の如き類）農業及び工業（日本が東部内蒙古に有する如き類）等の利權。
- 4、政治借款 列國が支那政府に貸金することが競争されたが、近頃は列國共同出資の傾向となつた。

以上は列國が支那に有する政治關係を主として述べたが、經濟關係については

外國貿易の項に述べたところに就いて見るがよい。

列國との政治・經濟以外の文化關係については、日本との關係が最も歴史も古く關係も深いのは云ふ迄もないが、英・米・佛等の諸國が或はキリスト教の布教の側から學校・病院等の文化事業を營み、或は留學生を引受けて之を教育する等その文化の扶殖に務めて居る。殊にワシントン會議以後は米國が最も支那人に好感を與へて居るのである。



## 日本との關係

支那は我が隣國で同文同種の國であるから、諸外國中で最も我が國と關係の深いことは多言を費すの要はあるまい。明治以前の關係は暫くこれを省き、茲には明治以後現今に至る日支關係の概要を述べる。

明治四年には我が國は諸外國に對すると同様に支那に對しても法權及び稅權に於て不對等な、我が國にとつて不利益な通商條約を結んだ。七年には臺灣事件があつたが少許の償金を我が國で得たのであつた。其の後韓國の宗主權に關し相反目し（明治十五年及十七年の變、十八年の天津條約）遂に明治二十七八年戰役となり、臺灣・澎湖島を我に割き四港（沙市・重慶・蘇州・杭州）を開き、償金二億三千萬兩を支拂はせた。又通商條約は列國と同等となり日本に有利なものとなつて

以前とその地位が顛倒するに至つた。

之より我が國は支那問題に對し漸次列國と國づく各種の機會に均霑し、其の地位を進めることゝなつた。北清事變（明治三十三年）には我が軍は聯合國の主力となつて之を鎮定したので、支那に於ける我が國の地位は愈々重きを加ふるに至つた。明治三十五年一月、日英同盟の成立と、明治三十七八年日露戰役とは、アジヤに東漸する南北の兩強に對し、一は平和的に一は争鬪的にその關係を決定したものであつた。そしてそれが日本をして世界の一等國たることを現實に證明することとなつた。

日露戰役の結果露國の勢力を北滿洲に驅逐し、關東州の租借權及び東清鐵道一部の割讓等をなさしめ、我が國の南滿洲に於ける勢力は牢として拔くべからざるものとなつた。戰後日清の關係は一時親密であつて、支那學生の日本留學、日本人顧問・教師等の支那招聘等があつたが、その後種々の問題（安奉線改築問題・間



島問題等)が相次いで起つて其の關係次第に疎隔するに至つた。大正三年日獨戰役の結果、日支關係の諸問題を解決する爲め、翌大正四年一月十八日から五ヶ月に亙り所謂二十一ヶ條について二十餘回の折衝を経て遂に五月七日日本からの最後通牒により九日支那は之を承諾し、二十五日條約の調印を見るに至つた。支那はこの五月七日を國恥記念日と稱し、爾後年々この日に或は弔旗を出し、或は諸種の排日運動をして居つた。一九一九年のベルサイユ條約及び一九二一—二二年のワシントン會議の結果は、この大正四年の日支條約に若干の變更を加へて今日に及んだ。今之を一括して略記すると次の如くである。

### 一、山東問題

一、膠州灣租借權 日支條約によると、ドイツが此の權利を全然日本の自由處分に委ねるならば、膠州灣を支那に還附し、支那は之を商港として開放し、日本の專管租界(居留地)を日本の指定する場所に置き、列國が希望するならば共同租

界をも置くこととした。その後アメリカ合衆國の申出により日本は專管租界を置くことは取消した。ベルサイユ條約により租借地が日本に歸したから、日本は之を支那に還附し、支那は全地域を外國貿易の爲に開いた。そして外國人はこの地域内に居住・營業の自由を得、且その既得權は尊重されることとなつた。

二、山東鐵道經營權 山東鐵道即ち膠濟鐵道(膠州灣・濟南間四九四軒五、支線五二軒)の權利をドイツが譲れば支那は異議なきことを日支條約で定めたが、ベルサイユ條約により日本に讓受けた。更にワシントン會議の結果之を支那に賣渡した。その條件は五千三百四十萬金貨マークに日本の加工の實際支出額を加へ、減損價格を差引き支那國庫證券を日本に渡す。之は十五年以内に支拂ふのであるが、五ヶ年以後は何時でも六ヶ月の豫定を以て全部支拂ふことが出来る。又全部拂込むまでは日本人各一名を運輸主任及び會計主任として任命するを要することとなつた。



三、鑛山採掘權 日支條約によるとドイツが支那から得て居つた鐵道沿線の左右各三十支那里(約四里)の地帯の鑛山採掘權はドイツが此の權利を讓るならば支那は異議なきこととなつて居つた。ベルサイユ條約によりこの權利は日本に移つたが、ワシントン會議の結果日支合辦の魯大鑛業公司以て經營することとなつた。淄川・坊子の炭坑及び金嶺鎮鐵山はかくして稼行をつゞけることとなつた。

四、山東省に於ける人・資本・材料供給の優先權 これは山東省に於て顧問などとして外國人を雇ひ、又外國資本や外國材料を入れる場合にはドイツに優先權を與へるものであつたが、ベルサイユ條約により此の權利も日本に移り、更にワシントン會議の結果、日本はこの權利を拋棄した。

五、山東省不割讓 これも日支條約の一ヶ條であるが、ワシントン會議にはこれには觸れなかつた。

六、未設鐵道利權 ドイツは山東鐵道の一驛高密から津浦線の一驛に至る鐵道借款權及び濟南から京漢線の一驛に至る鐵道借款權、煙濰鐵道(芝罘即ち烟臺と濰縣間)借款優先權を得たが、その權利はベルサイユ條約により日本に移り、更にワシントン會議の結果之を國際財業團の共同事業に提供することとなつた。

七、青島稅關特權 ドイツ領時代には膠州灣の或地區を限り自由貿易地であつたが、それより内へ入る貨物に課稅するため青島に支那稅關があつた。その稅關長はドイツ人、副長以下はなるべく多くのドイツ人を使用することにし、且稅關收入の二割をドイツが得ることになつて居つた。尙ドイツの軍需品は無稅とし、其他租借地内に使用する機械類・官公署建築材料・農工器具の輸入は無稅となつて居つた。この權利も日支條約により日本に移らしめることとし、ベルサイユ條約により決定したが、ワシントン會議の結果日本は此の權利を拋棄した。但し稅關では日本語を使用し得ることとなつた。

八、通信上の特權 日支條約及びベルサイユ條約の結果、ドイツの經營して居



つた郵便局・電信局を日本が譲受けたが、ワシントン會議の結果列國と同様之を拋棄することとし、大正十二年一月一日までに之を實行した。

九、都市開放 日支條約の一條項で山東省の主な都市をなるべく早く外國人の居住、貿易のために開放せしめることを約したのであるが、これはワシントン會議では觸れなかつた。

其の他ベルサイユ條約によりドイツが我國に譲つた青島・上海・芝罘間の海底電線はワシントン會議の結果支那に與へることとした。但、佐世保・青島間の海底電線布設のため利用し得る部分は我が國に保有するのである。又ベルサイユ條約によりドイツの國有財産は一切日本のものとなつたが、ワシントン會議の結果之と共に日本の國有財産をも支那に與へた。但、ドイツのもので日本が手を加へたもの、又は日本で造つたものは實費を支那が支拂ふのである。只日本の領事館に充つべきものは日本が保有し、居留日本人の福祉の爲め必要なもの（學校・神社・

墓地等）は居留民團に與へた。ワシントン會議では以上の外、山東の日本駐屯軍の撤退、膠州灣の日本人所有鹽田を支那に賣却すること、青島及び濟南の日本無線電信局を支那に賣却すること、電燈・電話は支那政府へ、屠獸所・洗濯所は日支合辦で經營すること、道路・水道・公園・下水道・衛生設備等の公共施設に居留民團の參與を置くこと、青島市政に對し居留外人が參與することを定めた。

## 二、滿蒙問題

これは大正四年の日支條約がそのまま有効につづいて居る。

一、關東州租借期限延長 一八九八年三月廿六日から二十五ヶ年の期限を十九年に延長した。

二、滿鐵經營期限延長 一九〇三年七月一日（竣工の日）から八十ヶ年を経ると無償で支那に與へ、又同年から三十六ヶ年後には支那に賣渡すこととなつて居つたのを、前者を九十九ヶ年に延長し、後者を削除した。



三、安奉線經營期限延長 一九一一年十月一日の改築完成から十五ヶ年で支那に賣渡すこととなつて居つたのを九十九ヶ年に延長した。

四、内地居住權及び土地商租權 南滿洲では從來二十餘の開放地及び鐵道附屬地に日本人が居住し得るのみであつたのを、何れの地にも居住し得ることとし、又商工業上の建物を設ける爲め又は農業を經營するため三ヶ年以内土地を商租する(借る)ことが出来ることとなつた、しかしこの土地商租については支那側は支那人に對し禁止的細則を定めたから實現は困難となつて居るので、現今問題になつて居る。

五、借款優先權 南滿洲で外國から鐵道其の他に就て借款するときは日本に優先權を與へることとした。

六、顧問聘用優先權 南滿洲で政治・財政・軍事・警察の顧問を外國から招聘するときは日本に優先權を與へることとした。

七、鑛山採掘權 日支合辦經營の條件で左の九ヶ所の鑛山採掘權を得た。

奉天省 牛心臺(本溪縣)、田什付溝(同上)、杉松崗(海龍縣)、鐵廠(通化縣)

暖池塘(錦縣) 以上石炭

鞍山站一帶(遼陽縣・本溪縣) 鐵

吉林省 杉松崗(和龍縣) 石炭・鐵

紅窩(吉林縣) 石炭

夾皮溝(樺甸縣) 金

八、吉長鐵道借款契約改訂 日本の技師長及び會計監督に權利がなかつたのを權利ある様にしたことが主な事項である。

九、東部内蒙古に於ける諸種の利權 農業及び其の附隨工業經營を支那人と合辦で營み得ること、鐵道其の他の借款優先權、都市の開放をなさしめることを定めた。



### 三、其他の諸問題

これも日支條約によつて定められ、中には後日に譲られたものもある。

一、沿岸・島嶼の不割讓 支那の沿岸及び島嶼を外國に割讓せしめぬこととした。

二、福建省に關する聲明 造船所・軍用貯炭所・海軍根據地其他軍事上の設備をなすことを何れの國にも許さぬこと、又外資を以ては支那自らもなさぬこととした。

三、漢冶萍公司問題 前に述べた通りこの公司には日本の資本が多く入つて居るから、將來日支合辦とするならば支那政府は之を承認すること、支那政府は此の公司を沒收し又は日本資本家の承諾なしに國有とせぬこと、日本以外の外資を入れしめないこととした。

四、後日商議すべき事項

1、中央政府に政治財政及び軍事顧問招聘問題

2、支那に於ける日本の病院・寺院及び學校に對する土地所有權問題（これは既に歐米人に許して居る）

3、警察を日支合同にするか又は日本人招聘の問題

4、兵器供給問題

5、武昌・九江間、南昌・杭州間、南昌・潮州間の鐵道布設問題

6、日本人の布教權問題（歐米人にはこの權がある）

以上で日支間の關係殊に其の政治的關係の大體が明かとなつたと思ふ。

次に兩國の貿易關係を述べる。

我が國の對支輸出貿易は日清戰役までは微々たるものであつた。明治二十五年には約六百萬圓（我が輸出總額の約七パーセント）。日清戰役後は大に増進し、日露戰役を経て一層の發展を見るに至つた。昭和元年には關東州を加へて五億二千



萬圓（我が輸出總額の約二割五分）となり、我が對米輸出について第二位となつた。しかし支那は原料國であるから、我が工業品の需用に適し、人口多く、關稅及び運賃の低廉なことから考へると最も有利である。只支那に工業の次第に勃興することと、日貨排斥が屢々あることは將來に對する難關である。

次に支那から我國への輸入貿易も次第にすゝみ、昭和元年には關東州を加へて五億五千萬圓（我が輸入總額の約二割三分）、米國について第二位である。支那からは概ね原料品・食料品が來るから、我が國の工業發展に伴なひ次第に量を増すこととなるであらう。我が工業上の大問題たる原料問題を解決するのは日支貿易の促進にあると思ふ、そしてこれが經濟上日支共存共榮の正道であらねばならぬ。何となれば彼の餘れるものを買ひ、我の餘れるものを賣つて兩者が利益を増すからである。支那を政治的に侵略することは今後止めて（今迄とても國勢發展上當然の結果であつたが）主として經濟上兩國の共榮を謀ることが大切であると思ふ。

尙支那貿易に於ける日本の地位は既に貿易の項中に述べたとほりである。

最後に日支兩國の文化關係について見ると、古來諸外國よりも甚だ密接であることはいふ迄もないが、前にも述べた様に英・米・佛等の諸國が文化事業を支那に起こして居るのに日本はこの點に於て滿洲の外殆んど見るべきものがなかつた。しかし對支文化事業が着々歩を進めて來たのは喜ぶべきことである。この點に於ても我が國は一段の努力を拂ふべきである。



## 日支親善

### 日支親善の必要

我國が世界何れの國に對しても友交親善の關係を保持して行かねばならぬことは申すまでもないが、わけても隣國の支那とは親善をせねばならぬ。日支親善は日支兩國共存共榮の道である。たとひ今日の様に支那には排外熱が盛であつても、遠からず解決がついて來て、日支親善の途を更に辿り行く様になることと信ずる。實際さうすることが兩國の幸福を増進することになるのである。

日支親善が兩國共存共榮の道であるといふ理由を、經濟上・政治上の兩觀點から述べて見よう。

### 一、經濟上の理由

支那の外國貿易を見ると、イギリス本國及び其の屬領のホ

ンコン・インド・海峽植民地・カナダ等の貿易額を合算すると支那對外國貿易額の約三割を占めて第一位であるが、日本は約三割弱で第二位、アメリカ合衆國は約二割で第三位である。即ち支那市場は日英米三國の競争場裡である(第四十四圖)。

日支貿易について云ふと、支那から我が國に來る主な貨物は豆粕・豆・鐵・綿・小麥・石炭・柞蠶絲・落花生の實と油・生牛皮・鶏卵等であつて、我が國から支那に送る主な貨物は、綿布・綿糸・石炭・銅・砂糖・袋類・綿・紙・海産物・電氣用品・木材・マツチ等である。更に日本の外國貿易に於て、支那はアメリカ合衆國(日本の外國貿易額の約三割)について第二位を占め、日本の外國貿易額の約二割に當つて居る。かくの如く日支兩國の通商關係は兩國にとつて何れも重要な地位を占め、且その貿易品を見ると、支那は原料の生産國として、日本は製造品の生産國として、有無相通じ、その地理的位置の接近といふ有利な點を有するため、年年相互の貿易は發展しつつあるのである。しかし日本工業の原料品で日本の主要輸入品



たる綿・鐵・粗糖・羊毛・小麥等は現今支那から輸入する額は尙少ないのであるから、將來一層多く支那から供給を受けることにすると、一面には支那産業の發達を促し、他面日本工業の隆盛を見、共に經濟的發達を遂げ、共存共榮の實を擧げ得ることとなるのである。

二、政治上の理由 日支兩國は同文・同種の國であるだけ歐米人よりも親しみやすく、思想・感情等にも共通點が多いのであるし、地理的位置の接近即ち隣國であるといふことは、政治上の提携をするには誠に好都合である。が又しかし兩國相争ふことも比較的容易である。しかし隣國が相反目し相争ふこと位兩者の不幸はない。丁度個人の日常生活に於て隣同士が相反目し相争ふことの如何に不愉快であり不幸であり、相親み相助けることの如何に相互の生活を愉快ならしめ幸福ならしめるかと同様である。日支兩國が相提携して國際場裡に活躍するならば世界に重きをなすこととなり、兩國の國勢増進上如何ばかり利益であるか分らない。

しかし最近二三十年間の日支の政治的關係を一瞥すると誠に不幸な状態にある。日本の國力増進は朝鮮半島に於ける兩國の衝突(日清戰役)となり、更に南滿洲に於ける日露の衝突(日露戰役)となり、更に世界戰役のはじめ山東半島に於ける日獨戰役となり、その結果大正四年の所謂二十一ヶ條の日支條約となつた。この經過は時の勢でやむを得なかつたことであるが、大正十一年のワシントン會議からはこの形勢が若干緩和されて來た。そして列國と共に我が國も治外法權や片務的協定稅率の關稅權を含む不平等な對支通商條約を將來改訂して平等のものとすることを約した。その他列國と共に租借地をも返還するときに將來くるであらう。しかしそれは日本國民の支那に於ける經濟關係を阻害せぬ幸福な日の來たときでなければ出來ぬことであらう。それには先づ支那自らの國勢が強くならねばならぬと思ふ。治外法權の撤廢は支那の國勢が振ふ様にならねばこの機會は到來しまい。それで私は支那のために圖るのは日本との今までの關係を寛恕し、日本



と親善し、政治的に日本と結ぶことが最も利益であり、日本も私心をはなれて心から隣國のために圖る様にしたと思ふのである。即ちこれが私の日支親善を政治上からも必要とする理由である。

### 日支親善の方法

以上で日支親善の必要を説いたから、次に日支親善の方法について卑見を手短かに述べる。

一、相互諒解といふことが必要である。相互の諒解がなくてどうして親み合ふことが出来、相提携して活動することが出来よう。然し相互をよく諒解せんとせば、先づ相互をよく知らねばならぬ。即ち相互の國民が互に他の國情を知らねばならぬ。我々日本人の側から云へば支那研究といふことを大にやり支那に關する知識を豊富に持たねばならぬのである。支那の人々にも日本の真相をよく知つて貰はねばならぬ。然るに日支兩國人は相互をよく知らないといつても差支ない。

それでは相互の眞の諒解は出来ない。私は先年對支文化事業部からの命令で、支那の國情を地理學的に研究するため約五十日間の支那旅行を試みたのであるが、その出發前まで久しく支那に就いて研究して居たが、學術的に日本人が支那を研究した書籍や詳細正確な支那地圖が誠に乏しいのである。支那に關する邦文の書籍は少ないことはないが、眞摯な研究が極めて少いのである。政治論や經濟論などにしても研究的のものや科學的根柢のあるものは甚だ乏しいのである。

例へば日本への輸出品たる綿についての根本的研究は三井物産が北支那に於て少しく試みつゝある位のもので、それも黄土の研究から始めねば充分とはいへない。その黄土は北京農商部地質調査所技師スエーデン人アンダーソン氏の研究等が若干ある位のものである。日本人にして此の支那の富を生み出す黄土について特に研究した人を聞かない。此の點に於て滿鐵が滿洲に於て研究所・農事試驗場・地質調査所等を設けて、根本的に滿洲について研究しつゝある事を多としなければ



ばならぬ。又支那本部の地質についてはドイツのリヒトホルフェンやアメリカのウイリス等の研究を参照し、又一方特に調査員を派遣して南支那地質圖竝に北支那地質圖を公にした東京地學協會の功績も顯著なものであると云はねばならぬ。しかし此の地質圖は概觀的・豫察的のものであつて、其の詳密のものに至つては北京の農商部地質調査所の努力によつて次第にその調査は進行しつゝあるが、日本の地質學者の研究を待つ點も甚だ多いのである。

支那の氣候についても支那側の調査はあるが、日本人が之を助けて一層その完成を期せねば産業開發の根本的研究は出來上らないであらう。此の點に於て上海の徐家滙チカウエイに於ける天主教宣教師の支那氣象學上への貢獻は推獎すべきものであるが、之に反し日本の在支測候所の振はないのは主として經費の關係からであるといへ遺憾なことである。

又、支那の文化を根本的に研究することによつて眞に支那の社會や國情を理解し得るのであるが、この點に於ては支那史學・支那文學等の專攻學者の手に待つことが甚だ多いのである。

我々日本人が支那研究をやるには地理的位置の近いといふ便宜がある外に、支那の文獻を参照する上にも歐米人よりは遙に便宜であるに拘らず、歐米人の支那研究には中々立派なものがあつて、却て日本の支那研究が振はないのは痛歎に耐へぬ。この點から見て外務省が對支文化事業の一として近く北京に人文科學研究所、上海に自然科學研究所を建設することとなつて居るのは、日本の諸學者が支那研究を單獨に、又は支那人と共同にする上から事宜を得た必要な施設であると思ふので、一日も早くその日の來らんことを切望して居る次第である。

日本人の支那研究は以上二三の例について述べた通り甚だ貧弱であるが、更に一般人士殊に知識階級の人々すらが支那知識に乏しいことは驚くべきものである。歐米の事といへば比較的多くの興味を持ち且知識を持つて居る人達が、却て



近隣の支那の事情には甚だ暗い。これ國民外交の叫ばるゝ今日、又日支親善の必要な今日誠に遺憾のことといはねばならぬのである。地理教育者はこの點に深く反省し、自ら支那知識を深くし之を學校教育・社會教育に利用する様にしてほしい。近頃中等學校の修學旅行が滿鮮に行はれ、又教育家等の支那旅行が年々増加して行くことは誠によろこばしい現象であると考へるのである。地理科教師で未だ支那の地を踏まぬ人は、夏季休業等に支那旅行を實行されんことを切望する。

以上述べた様に日支親善の第一歩は相互によく知り合ふことで、それが出來れば相互に諒解が出來、相親しみ相携へて兩國の利益を増進して行くことが出來るのである。

二、次に兩者の親善關係促進の爲めに、正義王道を以て交はることが必要である。外交も亦この原則に基づき、日支の共存共榮を念とし、徒らに歐米の顔色を窺はず、所謂自主的外交をやつて行くことが必要である。又日本の對支實業家の

如きも一攫千金を夢みる如きは心得違ひの甚だしいもので、これは永續すべき性質のものでなく、支那人の反感を招き日本人の信用を落すだけの結果となるのである。今青島の日本人に例をとると、ドイツ時代の在留日本人は約四百人に過ぎなかつたが、日本時代には一躍二萬四千人に増加した。然るに支那時代の青島には約一萬人の在留者を残すのみとなつた。この激減は駐屯軍相手の商人が退散したのにもよるが、一攫千金を夢みる連中も大部分は退散して、今は不景氣の中にも堅實な分子のみが残り、忍耐と努力とによつて其の地歩を堅めつゝあるのである。支那各地の在留邦人も年々堅實味を加へて來ることは喜ばしい事實である。

次に相互に敬愛し相互の自尊心を傷けぬことが大切であると思ふ。日本人は支那人の自尊心―國民的プライド―を傷けぬ様に心掛けねばならぬ。國勢上から見ると支那は所謂二等國で、日本は所謂五大國の一である。しかしその爲に支那國民を輕蔑する様では決して兩者の親善は望まれないのである。支那は政治組織が



現在不完全で内争を事とするため國勢は振はないのであるが、支那の經濟的實力は大したものである。しかしそれは多くは潛勢力であるから、その開發が必要である。支那は經濟的見地からは非常に有望な國である。従つて一方經濟的開發をなし、他方政治組織を鞏固にすれば一等國たり得るのである。支那の人々は大國民たる襟度を持つて悠揚として迫らぬのは、日本人の性急なものと大に異つて居る。従つて支那の改革進歩の如きは長い年月を要することであらう。更に支那人は概して勤儉であつて忍耐力が日本人よりも強い。簡素な生活に甘んじ、然も勞働能率の大なることは眞に驚嘆に値するのである。しかし支那人は概して利己的である。これは一大缺點であつて、つまり歴代の政治が不良であつた結果、自ら守り自家を本位とするといふことより致方なくなつたことから起つたものであると思はれる。

以上述べ來つた處を要約すると、日支親善は永久に必要であること、日支親善の方法としては相互によく諒解することから始め、相提携して後は相互相愛し、正道を踏んでその親善關係を持続否促進すべきであると考へるのである。



附

錄





# 支那の都市

本篇は「地理學評論」第一卷第七號に掲げたもので、本書の本文とは調和しないもので、又重複する點もあるが、私の支那研究の一端として茲に添付することとした。

## 目次

緒言

第一章 大都市の分布

第二章 都市の形態及び構造

  第一節 第一種の都市

  第二節 第二種の都市

  第三節 第三種の都市

## 緒言

都市は政治學・經濟學・社會學・土木工學・建築學等の研究對象となり得るもので

あるが、地理學の對象としては如何に取扱ふべきものであるか。先づ此の點を明かにすることが必要であると思ふ。

抑も都市地理 City geography 研究の發達は極めて近年のことに屬する。科學的研究の先驅としてはオーベルハンメル及びハッセルト二氏を擧げるのを適當とする(1)。従つてその研究も學者によつて方向及び方法を異にするを免れぬが、大別して(一)個別的研究と(二)概括的研究の二とすることが出来る。前者は個々の都市に關する地理學的研究であつて、後者は一地方又は一國に於ける都市の概括的研究である。今簡單にこの兩者について概説する。

一、個別的研究 都市はバッサルゲの考ふる如く(2)、地表に於ける顯著なる人文的景觀 Kulturlandschaft であつて、ラッツェルの言を借りて云へば、人類の永續的活動(歴史)の藝術的產物 das künstliche Produkt der Geschichte である。従つて都市なる人工物を地物の一として、吾人は、ラッツェルが其の名著「人文地



理學」(3)の研究に於て示せる態度、又はブーバンが其の著「政治地理學」(4)に於ける研究態度、即ち自然科學者の態度を以て研究すべきである。地文學に於て某地の地形を論ずるに當り、先づ其の地形を記載し且その因て來る所以を説明すると同様に、都市についても其の地表占居の狀況即ち一般的形態 Morphology を述べ、進んで其の構造(組織) Histology を説き、更に其の因て來る所以を位置・地形・氣候等の自然的原因並に政治・經濟等の人文的原因に求めて之を明かにするを要する。この研究に於て歴史的發達的研究 Historical or biological study から離れてはならぬ。初よりプランを定めて都市の建設せらるゝ場合は、自然的條件優秀にして且交通の便利な、生活資源の豊かな、人類の集團生活に適する地が選ばれ、其の後はこの自然的・人文的條件に伴なつて次第に發展し、又は其の條件の變化に伴なつて次第に衰退するに至るものである。小なる聚落より自然に發達し來つた都市にあつても、亦自然・人文兩方面の原因に基づいて發達するのである。

都市の形態を記述するに當つては、地圖に示す如き水平的占居狀況の外、パッサルゲの如く垂直的(立體的)景觀を述べることも必要であるし(5)、又都市の形態の發達を地圖に示すことも大切な吾人の任務である。

更に都市を其の職能 Function の上より觀察して其の都市の特色を明かにし(都市の生理學 Physiology)(6)、進んで之が市街の形態・構造の上に如何に表現され居るかを見ることを要する。

二、概括的研究 此の方面の研究に二方向がある。(a)分布に關する研究で、ラツェル等の試みた處である(7)。即ち或地域に於ける都市の分布を見、且その因つて來る所以を、自然・人文兩方面より攻究するのである。(b)都市の形態・構造上の地方的特色に關する研究であつて、ガイスラー(8)・フリユア(9)等の試みた處である。

都市地理の研究は以上の如き諸方面に互るから、支那都市の地理學的研究に於



ても、是等諸方面から研究するを要する。然るに余の昨夏の旅行區域は支那の小地域に限られ、且其の踏査期間も僅少であつた上に、文獻の涉獵(10)未だ普くないから、茲には充分なる研究を報告し得ないことを遺憾とする次第である。

- (1) Oberhumer: *Der Stadtplan, seine Entwicklung und geographische Bedeutung*. 1907. Hassert: *Die Städte, geographisch betrachtet*. 1907.
- (2) Passarge: *Die Landschaftsgürtel der Erde, Natur und Kultur*. 1923.
- (3) Ratzel: *Anthropogeographie*. I. 1882. II. 1891.
- (4) Supan: *Leitlinien der allgemeine politische Geographie, Naturlehre des Staates*. 1922.
- (5) *Ibid*: IV Die Stadtlandschaften in den verschiedenen Landschaftsgürtel.
- (6) Arousseau: *The Distribution of Population: A constructive Problem*. *Geographical Review*, Vol. XI. 1921. p. 572. によれば、都市を職能上より、政治都市・國防都市・文化都市・生産都市・交通都市・保養都市の六種に大別し、更にこの各を細別して居る。

- (7) Ratzel: *Die geographische Lage der grossen Städte*. 1903.
- (8) Geisler: *Beiträge für Stadtgeographie*. *Zeitschr. Gesell. für Erdkunde zu Berlin*. 1920. S. 274-296.
- (9) Fleure: *Some Types of Cities in Temperate Europe*. *Geograph. Review*, Vol. X, 1920. pp. 357-374.  
*Idem*: *Cities of the Po Basin*. *ibid*. Vol. XIV. 1924. p. 345-361.
- (10) 支那の都市地理に關する纏まつた文獻は余の狭き管見では、山崎直方「支那都邑の構造について」(明治四十年、地學雜誌)と、2にあぐるバッサルケの書中の *Die Stadtlandschaften der chinesischen Kulturwelt* の一小篇とを過ぎない。

### 第一章 大都市の分布

支那は原始産業を主産業とするが故に、人口の都市集注は未だ顯著でない。従つて人口密度に比すれば大都市は割合に少い。人口十萬以上の所謂大都市は人口密度の最も多い北支那平野・揚子江流域・南支那海沿岸及び滿洲平野に位置する。



大都市は全國の首府北京及び各省々城の如く多くは政治的中心であつて、其他は南京條約（一八四二年）以後外國に互市を許した開市場である。支那本部に於ける人口十萬以上の都市は約六十<sup>(11)</sup>で、其の他の地方では滿洲に四あるのみである。

次に大都市の主なるものについてその分布を述べる。

滿洲に於ては奉天（人口二十萬）<sup>(12)</sup>を最大とし、その南の門戸として、我が租借地内に大連（人口二十萬）がある。北には長春（人口十二萬）・哈爾濱（人口十五萬）がある。大連と哈爾濱とは共に元の東清鐵道の布設以後僅々三十年間の發達に屬し、長春の如きも舊城市は此の鐵道の影響により舊市街の北に接續都市の急激なる發達をなしたものである。奉天は長白山脈の西麓渾河の出口に近く前面に遼河の大平野を控ふる形勝の地理的位置にあるから、清初に渾河谷より此の平野に打つて出た清朝の首都となり、清の霸業成つて都を北京に移すやこの都市は留都として大都市を形成したのであるが、元の東清鐵道及び京奉線・安奉線のこ

こに集注するに及んで城西に接續市街の急激なる發達を促したのである。

北支那平野に於ては西北に偏して首府北京（人口百十八萬）を最大の都市とし、その門戸として天津（人口八十萬）がある。山東山塊の西側に濟南（人口三十九萬）その門戸に青島（人口十萬）、平野の西邊に近く舊都開封（人口二十五萬）がある。かくの如く平野の周邊に近く大都市の分布する原因は種々あるが、その主因とも見るべきは黄河が年々夏期に氾濫し、河道屢々南北に變ずるが爲めに、平野の中央は人民の集團的生活に適せぬ土地が少くない爲である。北支那平野以外、北支那に於ける大都市としては、此の大平野より蒙古への通路に當る張家口（人口十一萬）が平時には商業、戰時には攻防上の要衝として山隘に發達して居る。又古來西域との通路上にあたる黄河の支流渭水の河谷平野には舊都西安（人口三十萬）がある。

中部支那即ち揚子江本支流々域の大都市としては、門戸に上海（人口百五十萬）



中流に武漢三鎮(人口百四十六萬)がある。上海は支那最大の都市であり、最大の貿易港且工業都市として僅々八十年間に最も顯著なる發達をなしたのは、支那最大の富源で人口最も密なる揚子江流域の門戸を占むる優良なる地理的位置にあるからである。又武漢三鎮は我が九州大の湖廣平野(古の雲夢澤)の一角を占め、水陸交通の要衝に當り、所謂九省の會に當り、政治的に將た經濟的に優越せる位置を占むるからである。その中武昌・漢陽は其地勢、城の内外に丘阜を控へて政治軍事都市たるに適し、漢口は全く江及び漢水の交會點の平坦地にあつて商港として適當であるので、各その所を得て發達して居るのである。以上の二大都市について、江域の大都市には、上海の西に當つて蘇州(人口五十萬)がある。大運河と蘇州河との會合點に位し蘇州河及び滬寧線によつて上海其他に通じ、吳の國都たりし古より次第に發達し絹布其他の大集散地である。其西北に當り亦滬寧線の一驛で大運河に臨む無錫(人口二十萬)がある。宋代の築造にかゝる城壁をめぐらし

米・生糸等の集散地である。更にその西北、揚子江と大運河との交會點に鎮江(人口十萬)の開港場がある。その西方の南京(人口三十九萬)は六朝以來の舊都、殊に明の初代に最も繁榮し、現今は當時の隆盛に比すべくもないが、城北儀鳳門外の地、江に臨む處(下關)は水陸交通の要路で開港場として商工業の盛んな部分である。安徽省にては開港場蕪湖(人口十三萬)及省城安慶(人口四十萬)があつて、何れも揚子江に枕む大都市である。江西省には省城南昌(人口三十萬)が贛江の門戸に當つて最大の聚落をつくつて居る。湖廣平野では東方の武漢三鎮について、西に開港場沙市(人口十三萬)があり、西南には沅江の門戸に常德(人口二十五萬)があり、南、湘江流域に湖南省城長沙(人口五十四萬)及び開港場湘潭(人口三十萬)がある。却て平野の中部に大都市を見ないのは、中部が夏期氾濫する雲夢澤の低濕なる地勢によるのである。四川省に於ては所謂赤色盆地があつて、茲に揚子江と嘉陵江との會合點に開港場重慶(人口四十九萬)、泯江中流の沖積盆地に省



城成都(人口四十萬)がある。翻て浙江省に至ると茲に錢塘江の門戸を占め大運河の南端に省城杭州(人口八十九萬)があり、更に其の東に開港場寧波(人口六十三萬)の大都市がある。

南支那に於ては珠江の門戸たる廣東(人口九十萬)を最大とし、其東方に於ては潮州(人口十五萬)及び開港場厦門(人口十一萬)・福州(人口六十二萬)・温州(二十萬)がある。内部に入つては雲南省に省城雲南(人口十萬)あるのみである。これ南支那は支那山系域内に廣がる故人口密度も海岸地方以外は稍疎なるが爲である。

(11) Boxby : The Distribution of Population in China. Geogr. Review. Vol. XV, 1925. pp. 8-17. )の論文及び分布圖は The christian occupation of China の調査及分布圖に基くもので、人口分布に關する有益な一文であるが、都市分布のことは只第八圖其の他に少しの記述あるのみである。

(12) 以下括弧内に示す各都市の人口は China year book 1924. 及び日本領事館報告等によつたのであるが、報道區々で何れも概ね不正確なるを免れぬ。

## 第二章 都市の形態及構造

支那の都市は之を其の形態・構造上より區別して次の三種となすことが出来る。

- 一、固有の形態・構造を有する都市(假に第一種と稱する)
- 二、純然たる歐洲風の都市(假に第二種と稱する)
- 三、第一種・第二種の混合する都市(假に第三種と稱する)

以下節を分ちて之を述べる。

### 第一節 第一種の都市(13)

A、形態 周圍に城壁を繞らし(14) 城壁外に接續市街の發達極めて少ない爲めに、都市の水平的形態(輪廓)は其の城壁の形に支配されるのである。

城壁の形狀は東西線及び南北線を各邊とする正方形又は長方形を原形とするもの最も多く、稀には奉天の外城の如く圓形を原形とするものがある。是等の原形は何れも地形の制限を受けて若干の改變を加へられるのが普通である。その最も



著しい一例は南京で頗る複雑なる形状を呈する。

城壁構築の材料は村落の如きは土堆又は石堆に過ぎないものもあるが、都市には多くは磚を用ひ、都市の大なるほど其の幅及び高さを著しくする(15)。

城壁は多くの都市では一重であるが、都市の發達につれて二重にするものもある。その形式は奉天の如く方形の内城に圓形の外城を周圍に悉く繞らすものもあるが、濟南の如く北方に湖沼あるため外城は東西南の三面のみに築かれたものもあるし、北京(16)や廣東の如く南北に内外二廓相連るものもある。是等の場合は何れも内廓の方が外廓よりも構築の年代古く、且構造が立派である(15)。

城壁は全都市の防禦の爲であるから角樓・銃眼等を具へ、北京の如きは砲車を自由によりて城壁上で運行し得るのである。又外部と交通する爲、若干の門を設ける。この場合通常東西南北の四門を開き、必要に應じ更に其の數を増加する(17)。城門は單に一重のこともあるが堅固のものになると城壁を少しく張出して二重にするものもある。之を甕城といふ(15)。

城壁外の接續市街の發達は極めて少いが、發達する都市では城門外への道路に沿うて若干發達して居るものもある。接續市街の發達せぬ原因として次の二事項をあげる事が出来る。(一)城内の面積は構築の初から充分の餘地を残して居る。之は平時に於ては市街發展の餘地を残し、戰時に於ては敵に包圍さるゝとも、その中に外部よりの多くの避難者や兵員や軍用品を收容し得ることとなるのである。(二)城門は毎夜之を閉鎖し、城内は人民の身體・生命・財産の保護比較的充分であるが、城外は之に反するからである。我が國の都市は城下町が多いが、それ等は城主の居城で主として城主を保護するのであるが、支那の都市は全市民を保護するのであつて趣が大分違つて居る(18)。

**B、構造** 凡そ都市の街衢は自然的に發達して來たものは不規則であるが、豫め計畫的にプランを定めて築造したものは整然たる形状を具ふるものである。そ



の街路の方式には(1)放射式(2)同心圓式(3)直角式(4)折衷式の各種があつて、支那の都市は直角式である。そして通常東西南北に相交せしめるのである。その主要街路を大街といひ、之に次ぐものを小街又は單に街といふ。更に小なるものを北京の如く衚衕(胡同)といひ、又は武昌の如く巷などといふ。胡同の中には袋町になつて行詰つて居る死胡同といふものもある。又斜に通ずる小街を斜街といふ。かくの如くにして大都市にあつては略ぼ中心部に東西及南北二條の大路交叉し、北大街(又は北門大街)・南大街(又は南門大街)・東大街(又は東門大街)・西大街(又は西門大街)の四者あるのみであるが、大都市になると例へば北京の如く元の皇城の部分以外に於て多くの大街東西南北に交叉するを見る<sup>(17)</sup>。城壁が東西線と南北線とで成り立ち、街路も同様に東西線と南北線の結合より成るを原則とするは支那古代よりの制度で恐らく井田法なる土地割制度に關係あるものと考へらるゝのである。

大街は北京の如く洋式に歩道車道を分ち時に街路樹を植うるものもあるが、本來のものは是等の區別なく、路面には延石を疊むことはあるが修理行とゞかず、凸凹甚しいものがある。又石を敷かない街路に至つては雨季に泥濘が甚しい。

大街の交叉部には鼓樓及び鐘樓を置く。その構造は重層で、平屋造りの一般民家の中に聳立して都市の景觀を著しからしむるものである。これは平時は時を報じ、非常には警を傳ふるものである。

又大街中、殊にその交叉部には牌を置くことがある。例へば北京の單牌樓・四牌樓の如く一個又は四個を街路中に設くるのである。これは簡單なる門の如きもので單なる市街の裝飾に過ぎないのである。

第一種の都市は職能上より見れば概ね一國一地方の政治的中心で、かねて經濟・文化<sup>(20)</sup>の中心である。政治的建築物は多くは都市の中心に位置し、その地積廣く且其の建築は民家に比して壯大なるを通則とする。殊に首府北京の如きは内城



の中央部に大なる面積を占め巍然として幾多の大建築物重疊して壯觀を極め、專制帝王の居所としての尊嚴を印象せしむるに充分である。軍事的建造物たる兵營、文化的建造物たる學校・圖書館、信仰的建造物たる廟・寺・觀の如きは、市街中に占むる位置上の通則なく、都市によつて便宜の場所を占めて居るが、何れも民家よりは占むる地積及び建築物が大である。但し兵營の大なるものは屢々市外に置かれるのである。(例、洛陽・北京)。

各省・各郷縣民等のクラブである會館の如きは大小種々で各所に散在して居るが、主として商業區域内にある。これは大都市ほど其の數は多いが、これによつて此の都市に何地より住民が集來したかを知る一助となるのである。火車站(停車場)は城門外に設けられるのが通則である。奉天・天津・濟南・蘇州等皆然りである。城壁を切つて内部に入るが如きは例外とも云ふべきである。北京の如きは外城を越えて内城の正門(正陽門)外に京漢・京奉兩車站の相對立して設けらるゝ如

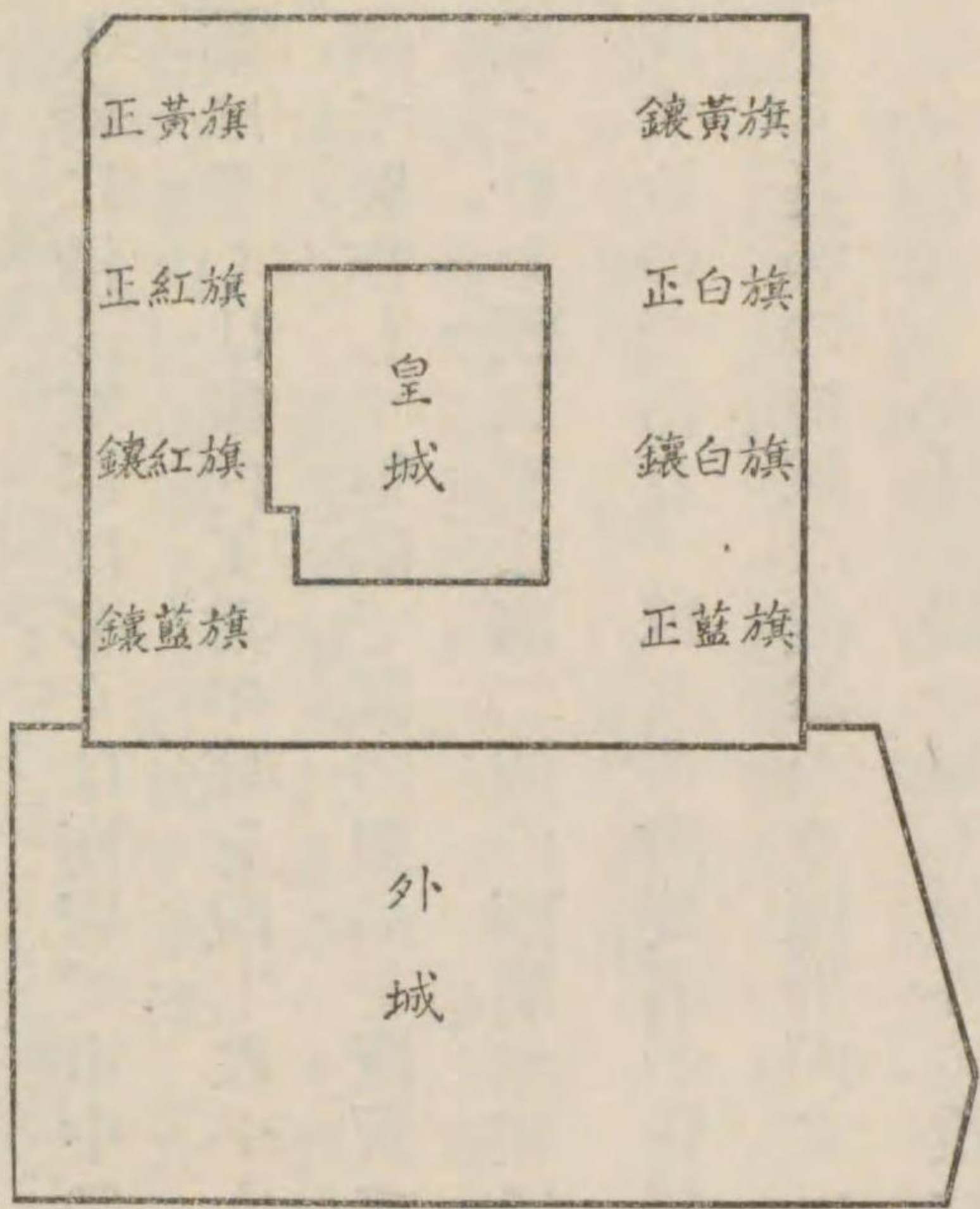
きは、外城を超ゆるは例外の例であるが、内城に侵入しないのは通則に従つたものである。内城の西北、西直門外の西直門駅の如きはこの例である。杭州を通ずる滬杭甬線の杭州站や南京の寧省鐵路の如きはこの例外の例である。

大街に沿ふ家屋は多くは商店で市中の最も繁華なる商業地域をつくる。市内の工業は多くは家内工業の域を脱しないから、内部は工場で表で販賣し、又は表の一隅で製作して他隅で其の製品を販賣する様なものであるから、是等は大街中に商家と軒を連ね又は第二流の商業地域に存在して商工業地域とも云ふべきものを形成するのである。單なる消費者の住居所謂住宅地域は小街の方面に多い。然し固より是等の地域は截然たる區別がない。但し大工場の如きは城内に設けらるゝこと少く(21)、武昌漢陽の如く城外に設けられるのが通則である(22)。

清朝の時代には漢族の大都市内に滿洲族居住の一區域が必ず存在して居つた。この滿洲族は八旗兵の分駐したもので、エルサレムと同様に、人種的に同時に職



業的に地域を分つ顯著なものであつたが、今は多くは滿洲人が離散してしまつた。北京に於ては左圖の如き配置の下に、内城には滿洲・蒙古・漢軍八旗が分駐して居



第五十圖 北京城内八旗分駐圖

つて、純然たる政治地域を形づく  
り、之に反して外城は漢族の居住  
地として商工業地域であつた。現  
今八旗は解散してしまつては居る  
が、なほ滿洲人のこの區域に住す  
るものが少なくなく、滿洲風の家  
や滿洲風の結髪した婦人などを見  
ることが出来るのである。又内城

の大街には漢族の商店立並んで商業地域が次第に増加したが(23)、官吏等の住宅は  
この方面に多く、小街以下は概ね居住地域を形づくつて居る。即ち内城は主とし

て政治地域・居住地域・文化地域である。之に反し外城は商業地域であつて、殊  
に前門大街(正陽門外の大街)附近の如きは北京第一の商業地域である(24)。  
北支那に於ける都市内の普通の民家の構造は何れも瓦葺の平家造りで比較的小  
なる家屋の集合したものである(25)。従つて都市の垂直的景觀は城壁に限られたる  
區域内に瓦の波の中に官衙・學校・鼓樓・鐘樓・寺・觀・廟等が聳立して其の單調を破  
るに過ぎないのである(26)。

(13) 第一種に屬する都市には大なるものがないから、本文の引例は便宜上概ね第三種都  
市中の支那市街の部分を示すこととした。

(14) 都市の周圍に城壁を繞らすことは支那都市のみの特徴ではない。歐洲の古代都市ア  
テネ・ローマ、中世の諸都市にも之を見、バレスタインのエルサレム、中央アジアの  
ブハラ・ヒバ、波斯の都テヘラン、インドのデリー等に於ても之を見ることが出来る。  
又支那文化の影響を受けた朝鮮や臺灣の都市乃至は我が平安京・平城京の羅城にも  
之を見るのである。支那にあつては常に都市のみならず、村落の稍大なるものに



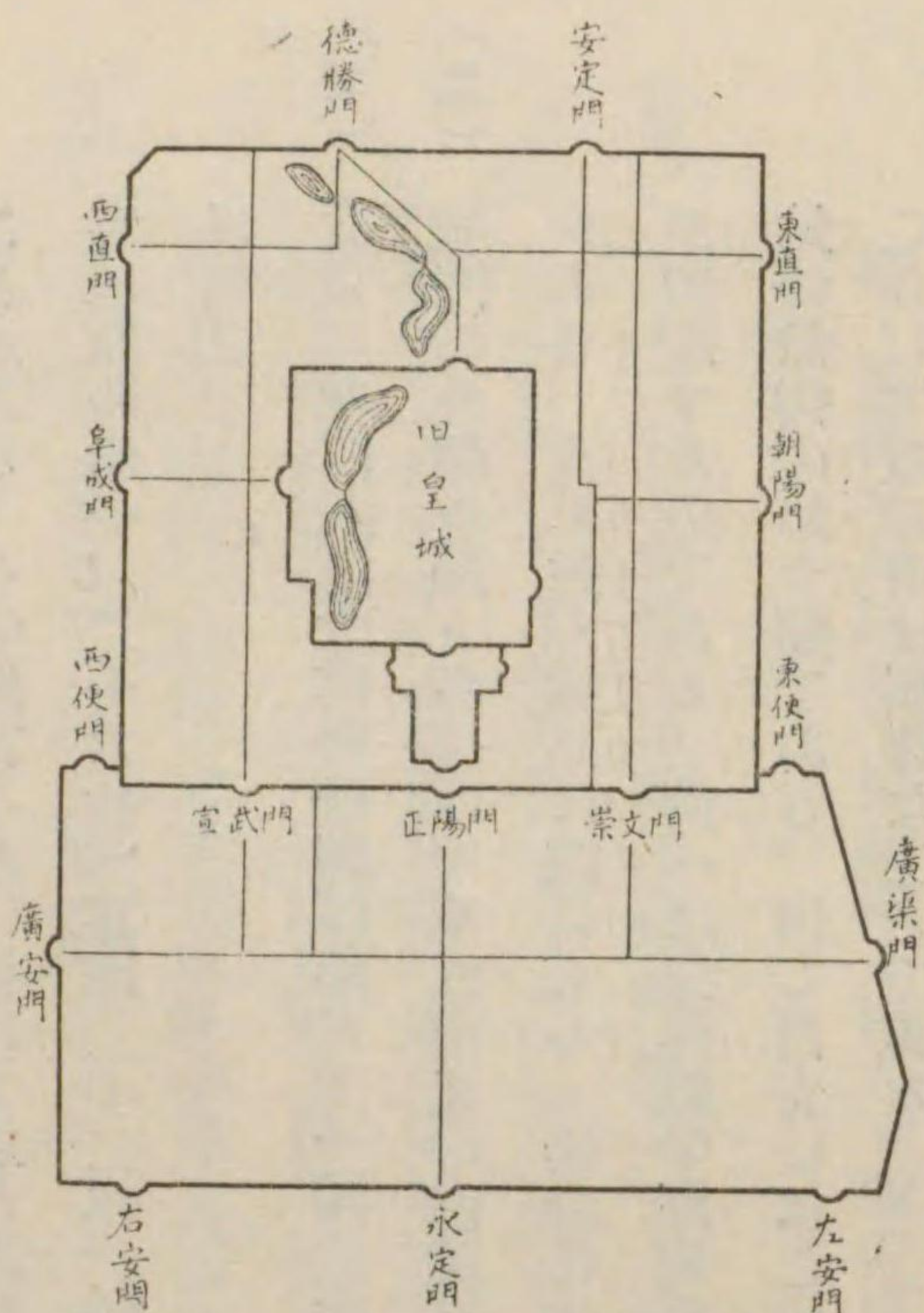
つても皆之を見る。我が近畿地方附近の村落に於ては、垣内といふ名稱を聚落の小單位に用ひて居るが、垣なるものは今は存在しない。然しこれは支那の影響を受けた時代には實際に垣を圍らしたものであると思はれる。那波利貞氏によると、支那都邑に城廓を築造せるは恐らく殷盤庚の殷都營建に濫觴するといふことである（史林、第十卷第二號所載同氏論文「支那都邑の城廓と其の起源」参照）。

(15) 北京の内城及び外城の大きさについて「光緒順天府志」卷一にもあるが、今「宸垣識略」卷一（二十四—二十六枚）の記事を掲げる。

「永樂中定都北京、改北平爲順天府、建築京城、周圍四十里、爲九門、……城南一面長一千二百九十五丈九尺三寸、北一千二百三十二丈四尺五寸、東一千七百八十六丈九尺三寸、西一千五百六十四丈五尺二寸、高三丈五尺五寸、堞口五尺八寸、基厚六丈二尺、頂收五丈」

「嘉靖二十三年築重城（「光緒順天府志」には「嘉靖三十二年建、四十三年成」とある）包京城南面、轉抱東西角樓止、長二十八里、爲七門、……城南一面長二千四百五十四丈四尺七寸、東一千八十五丈一尺、西一千九十三丈二尺、各高二丈、堞口四尺、

基厚二丈、頂收一丈四尺、四十二年增修各門甕城」以上は現在の北京城壁の記事である。築造は明代にかゝり外城の方が内城よりも城壁の粗末なことも以上の記事で明かである。



第五十一圖 北京の城門及び大街

元の土墻を磚壁に改めたもので、外城はその後百餘年嘉靖年間に築造せられたことは註15に示した如くである。外城がかく後に至つて増築されたことは正陽門外に支

(16) 北京が帝都となつたのは遼

(西紀九三七年)にはじまり、下つて金(一一五三年)元(一二六七年)明(一四二一年)清(一六四四年)を経て現在に在る。現在の城壁は内城・外城より成り、内城は明の永樂年間に元都の位置より稍南方に改築され、



那族の聚落が発達し來つたので之を保護する爲であることは、明嘉靖三十二年に朱伯辰が外城を大規模に築くべきことを進言したが、經費の關係上採用されなかつたことがある。その進言を左に掲げて之が證據とする。

宸垣識略卷一、(二十六枚)「嘉靖三十二年、給事中朱伯辰言、城外居民繁夥、不宜無以圍之……」

(17) 北京の城門及び大街の略圖は第五十一圖に示す如くである。

(18) 城門の外側を關と名づけ、東西南北の四關又はその何れかに多少の市街を見ることがある。火車站が城外に設けらるゝ場合にはその前方から城門までの間に接續市街が発達するのである。例へば京漢線の鄭州車站の西關の如き、或は京綏線の綏遠車站の前街の如き類である。但し西安にはこの東西南北の四關に夫々別に小城壁をめぐらしてゐるのは顯著なことである。

(19) 天津の舊城内には東西南北の大街の交叉する中心部即ち舊城内の中心に鼓樓がある。奉天の内城では鼓樓・鐘樓は中心より北に偏して大街の交叉點に置かれてある。北京の鼓樓は鼓樓大街と東直門大街との交叉點にあるが、鐘樓はその北方にあつて

大街の交叉點ではない。この鼓樓は元代の築造にかゝるもので元都の中心にあつたが、今は頗る北偏の位置にある。鐘樓は明の永樂年中今の地に建立し其の後焼失し、現今の建築物は清の乾隆十年の建造にかゝる(宸垣識略卷六、十二枚)。南京では鼓樓・鐘樓を合併して鐘鼓樓と稱し、城のほぼ中央、日本領事館の側の道路上に聳えて居る。

(20) こゝに云ふ文化とは政治・經濟以外の人文現象を總稱することとする。

(21) 北京に於ける工場の稍、大なるのは内城の東部に中華製造電器廠(東四牌樓大街)・工藝廠(大鵝鴿市)・色油製造廠(蘇州胡同)、西部に度量衡製造廠(祖家街)、北部に福盛織布廠(交道口)、外城には京師工藝廠(彰儀門大街)・織布廠(崇文門外・花市寶慶胡同・堂子胡同)・製革工場(香爐營頭條・西河沿)の如きがあるばかりである。

(22) 大工業が都市から遠心的傾向をとることは一般的の通則である。之に關する研究に黒正巖「工業の地理的分布と聚落形態との關係」(大正十一年及十二年、歴史と地理)がある。

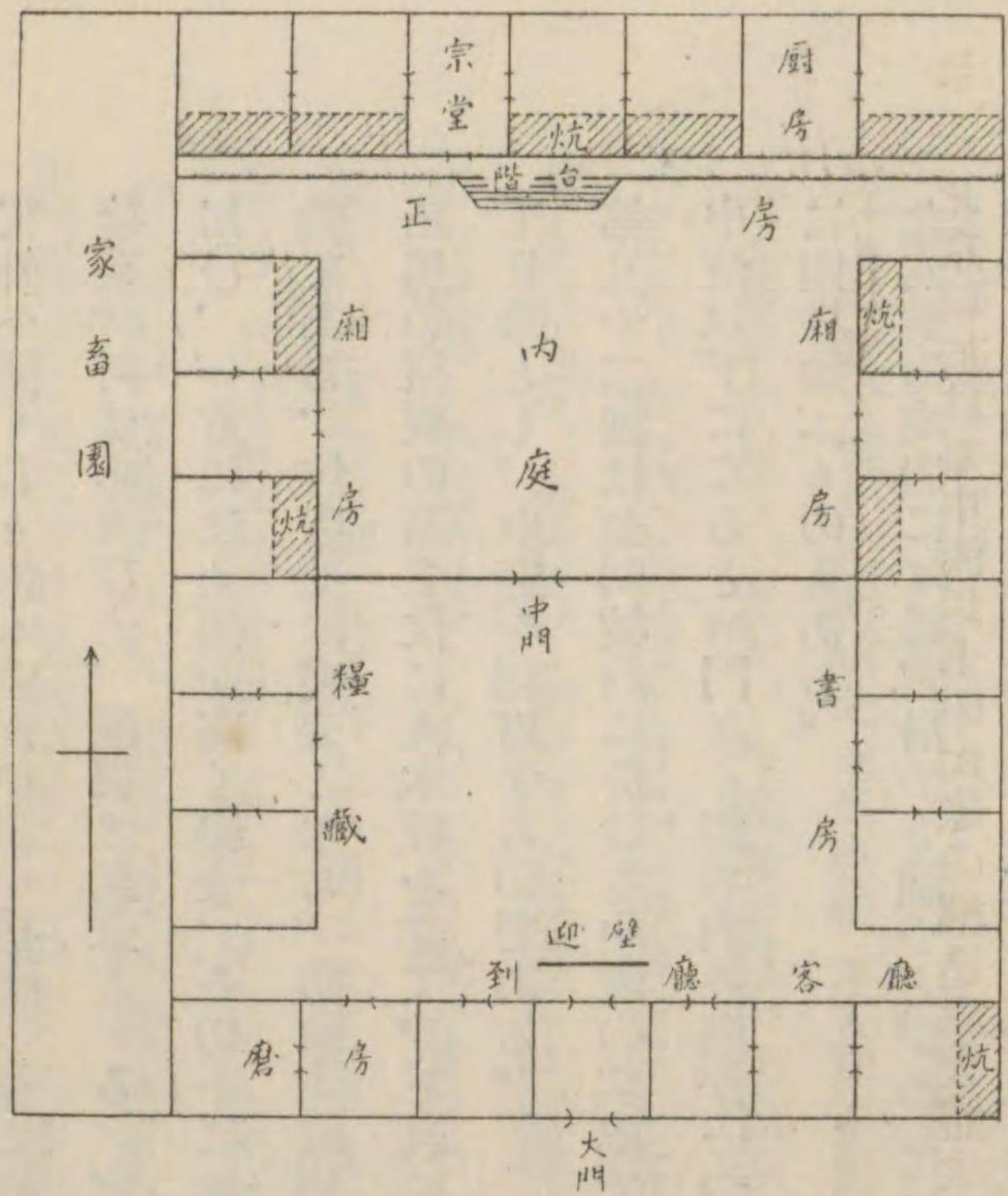
(23) 北京の市場の最大なるものが、今内城の王府井大街の丁字街にある東安市場である。



飲食品・家具・衣類・文房具・玩具・書籍・雜貨等の諸店より戲園（劇場）・飯店・茶館・餐館（料理店）・酒館・錢鋪（兩替店）・球房（球突場）・照相館（寫眞館）・電光影戲館（活動寫眞）等に至るまで具はり、殊に夜間は不夜城の如く、我が東京の淺草、大阪の千日前の如き雜沓場（盛場）の様である。北京には其の他内城に西安市場（西安門大街）・西單市場（西單牌樓）・地安市場（地安門外）・新豐市場（西四牌樓）がある。外城にも五ヶ所に市場がある。

(24) 正陽門大街の肉市口・市巷・珠寶市のあたりは兩側に店鋪・露店立ならび、其の西方の一廓、大柵欄・煤市橋・觀音寺街の邊は金店・銀店・珠玉店・藥鋪・洋物店・吳服店・茶鋪・菓子店・筆墨店・漆店・紙店等各般の大商店、さては茶館・餐館・酒館・照相館等何れも燦爛たる大招牌をかゝけ、街上は車馬の往來實に人馬轂擊の大雜鬧である。

(25) 北京に於ける中流以上の民家の構造は大體次の如くである。敷地は方形又は長方形とする、周圍には煉瓦塼を繞らし、その中を庭とし、四周に細長い家を立てる。なるべく南面させる。入口が東西にある家も正房はなるべく南面させる様にする。街路に面して正門（街門、大門）を設け、街門と相對して影壁（迎壁）を立て、内部を見



第五十二圖 北支那の民家平面圖(南滿金州)

透されぬ様にする。街門の兩側に門房がある。一方は門番（看門的）の居るところ、他方は客廳（外書房）に用ひる。影壁の後方は外庭で、次に中門があり之を入れれば内庭で、その正面に正房がある。正房は通常一段高くして建て、内庭の兩側にも室がある。大きな家では外庭の兩側にも室がある。正房は宗堂（祖先を祀る）を中央にし、其の兩側の室は主人・正夫人の室である。内庭の兩側の室を廂房といひ、子女の室である。一棟の室割は通常奇數とする。大きな家では正房の後に又小庭を隔て、尙一棟の後罩房を設け、如夫人（妾）又は下女（看媽）の居室とすることが



ある。各室の窓は庭に面してつくる、障子は上部を蝶番で繋ぎ下から上に押し上げて外へ開くこと恰も我が中世の建築の部と同一である。内外庭には草木を植込む。建築材料は木及び土、屋根は瓦葺とする。室内は土間で多くは煉磚を布き、椅子を用ひ、一方には土間を高く築き、その下に炕(朝鮮の温突)を設ける、これは防寒設備である、炕の上は寢臺となる。防暑の設備としては天棚といつて、中庭を中心に正房の屋根の高さ位に丸木柱を立て、それに葦簾張のようなものを中庭の上に張つて日除とし、中庭を利用するのである。

第五十二圖は金州城内に於ける中流の某邸であつて、大體北京のものと同様である。中流以下になると中門なく即ち内外庭が一つの庭となつて正方形又は長方形の周圍に四棟竝ぶものもある。

北支那の商店には通常局子と舖子とがある。局子とは普通の住宅を利用するもので、舖子とは商店として初めから建てられたもので、前房には商品の陳列場・客室及び主人の室を設け、後房には倉庫や使用人の寢室及び炊事場等を設けるのである。

中部支那の上海附近の民家・商店の構造は多少の差異があるが、これは「在上海帝國

總領事館管内狀況」(大正十年八月、外務省通商局、一三—一四頁)に載つて居るから茲には略する。

(26) 試に北京内城の略中央、北海の喇嘛塔からの大觀を記して見る(大正十三年八月末日登臨)。北京市街の全域は悉く吾人の雙眸に集まつて來るのであるが、試に西より望まんか、遙かに所謂北支那聯脈 Nordchinesisches Gebirgsrost の逶迤として繞るものを背景として、左方、外城廣安門外に屹立するは天寧寺の十三重塔(隋代の建造)である。中央、西直門と西北の角樓の右方遙かに見ゆるは玉泉山の古塔と萬壽山である。北方、德勝門と安定門との間には鼓樓・鐘樓が近く巍然として聳立する。この方向遠く平野の盡くるあたりは湯山温泉であらう。次第に眸を東方にめぐらすと、安定門と東北角樓・東直門との間には孔廟・雍和宮・俄國東正教總會々堂と水塔(上水道の)との新舊の建築物が顯著に見られる。朝陽門は眼前の景山の左に遠く頭を出して居る。南望すると、眼前に舊皇城の幾多の宮殿・樓門の黄瓦を見るべく、遙に永定門の左に天壇の祈年殿が聳えて居る。是等の顯著なる建造物を限る内外城壁の内には數萬の低い瓦屋が綠樹に包まれて居つて、靜寂な首都的印象を得るに充分で



ある。

### 第二節 第二種の都市

茲に所謂第二種の都市即ち純然たる歐洲風の都市として支那所屬のものには青島あるのみである。

青島はドイツが一八九八年膠州灣租借後、灣口に一新市街を建設し、これをドイツの東洋に於ける軍事上・經濟上の根據地たらしめんと目的から經營したものである。然るにその建設成つて幾年ならずして一九一四年我が國の領有となり、更に一九二一—二年のワシントン會議の後、之を支那に還附し、支那は租借地全域を膠澳商埠として列國に開放し、市街もその管理下にあるのである。

青島市街はドイツ時代に大部分成り、日本時代に更に發展し、支那時代には日本時代の状態を維持する状態である。以下青島市街の都市地理を述べる。

抑も獨逸が青島に着眼するに至つたのは地理學者リヒトホーフエン *Richtshofen*

の精密なる學術的調査に端を發することは世上周知の事であるが、青島の地理的位置たるや實に北支那に於て得難き形勝のものである。即ち北支那大平野所謂中原の東方に當り山東山塊が横はつて居つて遼東半島と相對して渤海灣口を扼する。山東山塊の中部に於て、此の山塊をほゞ東西の二部に分つ斷絶地の南端に、山東半島最良の大灣入がある、茲が青島の地點である。軍事地理上より觀察すると、港灣は以て大艦隊の根據地として旅順・威海衛とその價值相下らず、陸はこの斷絶地帯を通じて鐵路直ちに中原に大兵を送ることを得るのである。又經濟地理上より之を觀察せんか、中原の物資はこの斷絶地帯を通じて鐵路茲に出づべく、中原所要の物資は海外又は青島の工場より中原に供給することが出来るのである。但し山東鐵道は現今津浦線に連絡するのみで、未だ京漢線と直ちに連絡しないことは青島の背面地域 *Hinterland* として中原を包括するに足らないのを遺憾とする。然し北支那の貿易港として、その歴史最も新らしいに拘らず、僅々十年を



出でずして古き開港場芝罘（一八六二年開港）を凌駕し、次第に北支那第一の貿易港天津に肉薄するに至つたのは、蓋しこの優勝なる地理的位置がその主因の一である。

以上の如く青島は軍事的・經濟的根據地として建設經營せられたものであるから、市街の構造に於ても之を看取することは容易である。次に之を述べる。

青島市街の建設された地は膠州灣口を扼する東北方の半島の尖端、即ち嶗山脈の尖端部にあたる岩丘（主として花崗岩より成る）をめぐる緩斜な海岸平野であつて、外海の青島灣に面する今の市街南部の二十四萬坪を歐人市街とし、その北方膠州灣に臨む大鮑島附近一帯の地二十餘萬坪を支那人の居住・商業地域としたのである。そして道路(27)上水道(28)下水道(29)を完備し、民家をはじめ官衙・學校・教會・病院等の建設、公園・競馬場・海水浴場に至るまで、その施設間然する處なく、ドイツ流に完全に經營せられたのである。

ドイツは此の地に從來存在した支那民屋を悉く焼拂ひ、移轉料を與へて之を臺東鎮及び臺西鎮の新市街(30)に移轉せしめ、只青島海岸に天后宮及び支那衙門の建築だけを残して置いたのが、今も嚴存して居つて青島の歴史を物語つて居る(31)。市街は地勢に従つてつくられた爲め、その形態不規則なるを免れぬ。その街路も直角式のものが多いが、弧狀をなして居る部分も少なくない。

歐人市街はドイツ人の官衙・住居・商業地域で、教會・學校・病院は其の周邊部に位置し、兵營の如きは更に偏在し、主要丘陵は要塞に利用された(32)。支那人市街は歐人市街の北方につくられ、支那人の商業・居住地域としたが、その市街の構築は煉瓦造りで歐洲風である。

山東鐵道は歐人市街の西端より起り、海岸に沿ひ支那人市街の西を巡つて北上する。尙東方背面の禿山には植樹計畫をたて數年にして綠衣を之に被らせることゝなつた。



次に港灣の施設を云ふと、ドイツ領有の初、青島灣岸に三五〇米の木造棧橋を築造したが、外海に面し且岩礫の底質であつたから、これは殆んど利用されず、僅かに檢疫や軍艦のランヂを繫留する位であつた。今も同様である。仍て更に膠州灣内に於て市街の西北部に大規模の設備をした。其の概要は次の如くである。  
(一八九九年起工—一九〇五年竣工)

**大港** 出入口二八〇米、港内水面面積二方籽。東より北・西にかけて、この地方の卓越風を防ぐため、圓形に防波堤(長四六〇〇米、高五米)を巡らし、防波堤出入口西方に防波堤に接續する一區を埋立て、上屋を設け、其の先端に石炭貯藏所を造り、又附近に埠頭事務所及び工藝廠(政廳立で支那人職工養成)・鐵工場・造船所を設け、是等の部分から一條の鐵路を防波堤上に通じて山東鐵道と連絡せしめた。又其の前面に容搬力一萬六千噸の浮船渠を置いた。

南方からは長七三〇米、幅一〇〇米の第一突堤(埠頭)を出し、A B C Dの四倉庫を造り、茲に鐵道を設けて大碼頭(大港)停車場に連絡せしめた。その北一五〇米を隔て、並行に長四〇〇米の第二突堤(埠頭)を築き、茲にE F Gの三倉庫を設け、二條の鐵道を布きて又大碼頭停車場に連絡せしめた。又起重機は兩埠頭の各所に置かれた。第一埠頭は商船用、第二埠頭は海軍専用としたのである。

港内を浚渫して干潮時にも十米を保たせることにした。但、この邊の干満潮の差は二米六である。

**小港** 大港の南一哩、支那人街の前面海岸に民船TEIK碇泊所として築造したもので、防波堤二箇、出入口百米を隔て、相對し、港内に幅十米長百五十米の木造棧橋をつくり、鐵道を引込んだ。この港が出来た爲め從來膠州灣内で最もTEIKの輻輳した太沽河口埠頭の繁榮を奪ふに至つた。



其他

大港の第一突堤の南側には小蒸汽船・舢舨・浚渫船等を碇泊せしめるドック港といふのを設けた。又大港の東側にも一港を設け、石油船の使用に供した。港岸には石油倉庫及びスタンダード石油會社の支店がある。これは日本時代に埋立て、市街地とした。そして其所から大港に向ふ埠頭を第三埠頭と稱し、從來のものを擴張して、火薬・石油等の危険物揚卸用とした。日本時代以後は第一第二埠頭は何れも商船の碇泊所とし、元の石炭貯藏所のあつた所を第四埠頭と稱し、重量貨物(石炭・鹽・鑛石等)の揚卸場としたのである。

日本時代に於ける青島市街の發展は主として大港方面即ち大鮑島支那人市街の北方であつて、約三期に互つてその擴張が我が青島民政署の手によつて實行せられた。即ち

第一期 邦領となつて邦人來住の激増に伴なふ應急的設備として、先づ市街の

中央にある上海町(今の上海路)・所澤町(堂邑路)間の傾斜地(元ドイツ人の煉瓦工場)を撤去して三業指定地及び市街地を設け、又其の下方低地に市場及び附屬市街地を設け、次で小港の擴張及び荷揚場の整理をなし、其の附近を沿岸貿易市場及び倉庫敷地とし、稍々住宅地と商業地の不足を緩和することが出來た。次に若鶴山(貯水山)下の北方で、臺東鎮街道に沿ふ一帯の地域を工場指定地として、大和町(綏遠路)・上海町(上海路)間の傾斜地と瀬戸町(樂陵路)附近、それから大港停車場前一帶の高地と、膠州町(路)に沿ふ測候所山(觀象山)北麓の傾斜地を住宅地・商業地として完成し、逐次民間に貸下げた。其の他花咲町(察哈爾路)中央の空地に小學校敷地、若鶴山腹に神社敷地、若鶴町に高等女學校敷地を設置し、尙公園・齋場・墓地等の新設敷地工事をも施して、漸次、邦人永住の基礎を完成した。

第二期 若鶴山下と廣島町(廣州路)臺西鎮間の高地一帯の地域を住宅及び商業



地域とし、大港の東部貨物鐵道線路と、旅客鐵道線路の中間一帶の低地（面積十四萬三千二百餘坪）を埋立て、商業地域及び鐵道倉庫敷地とし、工場市街地及び臺東鎮舊市街の擴張を圖り、其の他旅順町（萊陽路）・忠海町（海南路）の沿道高地に住宅地を新設した。

**第三期** 大港埋築用土取場跡の臺東鎮西方高地約二十七萬餘坪の整理を行ひ、工場指定地の擴張地域として計畫されたが、これは實行に及ばずして支那に引渡したのである。

支那時代となつて日尙淺く、従つて市街の發展は未だない、只市街名等の地名を支那名に改めた位である（33）。

以上を約言すると、青島市街は南部、外海即ち青島灣に近き方面所謂歐人市街は主として官衙・住居・學校・教會等の地域で、其の東方忠海（Augusta Victoria灣）海岸の砂濱が海水浴場として利用される外、山脚概ね海に迫るから、市街地發展

の餘地少きに反し、歐人市街の西方から北方に互る膠州灣岸は海岸平野稍開けて北に連續して居るから、市街は次第に此の方面に發展し、大鮑島の支那人市街は商業地域をなし、更に埠頭地域には邦人の居住して商業に従ふもの多く、更に其の東北方は工場地域として次第に發展するに至つたものである（34）。

（27） ドイツ時代には道路の建設及び改修は土木局の主管に屬し、市内の道路を三等に分つた。一等道路の如きは中約三十米に及ぶ。各等の道路はマカダム式構築法により、何れも中央を車道とし、歩道を兩側又は一方に設け、車道の兩側に雨水溝と敷石車輪道、（一輪車の通行に便にす）を築きて一方路面の破壊を防ぎ、街角又は交通頻繁なる道路の交叉點には緩衝地を置き、又傾斜 $\frac{1}{15}$ 以上の坂路には全面張石を施して、降雨による路面の崩壊流失を防ぎ、且重量物積載車輪の路面磨擦を軽減した。其の他風致を添ふるためアカシアを行路樹として栽へ、その間に適宜アーケ燈を點じた。街路の掃除・撤水等は土木局の司る所であつた。

日本時代には舊道路の維持改修（マカダム式をター式に改築し、歩道をコンクリー



トブロック式に改良し、又車輪道敷石の増設等）及、未成道路の完成をしたものが五六四八〇米に及んだ（ドイツ時代既設の道路總延長は八〇六五〇米であつた）。この數字を見ても日本時代の青島市街の發展の一端を察することが出来るのである。

(28) 上水道はドイツ領有の初め、市内に約百餘個の井戸を掘り、之にポンプを附して汚物の侵入を防いだが、流行病が絶えぬし、水質が不良でもあるし、且市街の發展も著しいので、上水道布設の必要に迫られたが、附近の山地は禿裸で溪水も雨期の外、得がたき故、青島の東北約一里なる海泊河の河床中に數個の井を穿ち、地下水を吸引し、之を機力によつて測候所山上の貯水池に送り市内に配給することとした。然るにその水量が市街の發展に伴はなかつたので、更にその北方即ち青島の東北約三里なる李村河の河床から同様の方法で水を若鶴山貯水池に導いたのである。

日本時代には以上二ヶ所のみにては不足となつたので、更に李村河の北三里の白沙河に同様の設備をしたのである。

(29) 下水道の設備の完全なることは青島の大なる誇であつて、支那は勿論日本の都市も之に及ぶものはない、青島の下水は完全な暗渠式で、雨水と汚水を區別排泄する分離式と、兩者を同一管で排泄する混合式を併用したもので、大鮑島支那人街以南は分離式、その以北は概して混合式である。日本時代に建設した新市街は主として分離式である。大正十年三月末の下水道總延長は十三萬六千四百二十米で、内ドイツ時代の布設に係る分は七萬九千七百四十米で其殘餘は日本時代の増設にかゝるものである。

下水排泄の方法は、市内を四區の集水區域に分割して、各區域最低の箇所に唧筒所を設け、そこには汚水溜があつて、一度之に流入して來る汚水に對しては、固形物を取り去り、残りの流動汚水を唧筒で排泄する方式である。瀬戸町（若鶴山の西方）及舞鶴町（青島灣岸）のポンプ所は中繼で、此處で排泄せられた汚水は、孰れも廣島町（臺西鎮東方）ポンプ所の汚水溜に集めて、更に其のポンプ所で、臺西鎮屠獸場裏の高臺に押し上げ、其の後は自然流下で、遠く團島の突端干潮面下の排泄口から海中に放流するのである。又曙濱ポンプ所に集合する汚水は會姓岬裏側海岸に放流して居る。以上を見ると青島市街の地形の凹凸が大要諒解されるのである。

雨水の處分は、皆其の近海に放流して居るけれども、合流式のもの、各要所に溢



流装置を施して、下水ポンプ所に雨水の浸入するのを防止して居る。

- (30) 臺東鎮は青島市街の東北にあり、大正十年調、戸數一千人口約五千。ドイツが新設したもので、街衢は直角式をなし、衛生的設備よく整ふ。臺西鎮は青島市街の西南端にあつて前者と同様に建設せられたが、前者よりは其の規模が小である。この兩者は共に純然たる第二流以下の支那人町で、臺西鎮は海上生業者の根據地、臺東鎮は陸上失業者の居所として建設したものである。

- (31) 天后宮は海神を祀る。今より二百餘年前の建築にかゝる純支那式建築物で、洋風市街中に異彩を放つて居る。

- (32) 海正面には臺西鎮砲臺・オーガスト砲臺・灰泉角砲臺あり。陸正面には背面防禦の第一線に海泊河口左岸掃柱灘北方高地堡壘・臺東鎮北方高地堡壘・臺東鎮東方高地堡壘・浮山北方高地・浮山保壘があり、第二線にイルチス山堡壘・ビスマルク山砲臺・ビスマルク山西南高地砲臺・モルトケ山砲臺等があつて、是等は海上に對しても防禦し得るのである。

- (33) 例へば歐人街から東南海水浴場に向ふ市街は、ドイツ時代には August Viktoria

Strasse といつたのを、日本時代には忠海町と呼び、支那時代の現今では南海路と稱して居る類である。

- (34) 一九一〇年(ドイツ時代)の青島人口六萬(内、支那人五萬八千人、ドイツ人一千八百人、日本人三百人)であつたが、一九二一年(日本時代)には九萬五千人(内、支那人七萬五千人、日本人二萬人、ドイツ五百人)となつた。支那時代の現今の人口は不明であるが、日本人は約五千人を減じ、支那人は稍増加した様である。この數字はよく青島市街の發展を説明したものと一致する。

在留日本人の事業は支那時代の今日稍頓挫したが、健實なる邦人がこの地にあつて、外人中で最も有利なる商工業上の地歩を占めて居る。殊に邦人經營の工場(紡織工場を第一として生糸・落花生油・製粉・燐寸・麥酒・石鹼等の諸工場)は將來發展の餘地が充分ある。支那本部では上海・天津と相並んで邦人發展の三大重要地點である。青島の工業地として有利なる點は

- 1 山東の大消費地を控へること
- 2 石炭の安値なること



- 3 工場地の得易きこと
- 4 原料の安値なること
- 5 勞力の安値なること

尙、大正十二年の青島貿易額は一億八百餘萬兩（海關兩）で、大正十一年（日本より支那に青島を引渡せる年）の貿易額九千八百餘萬兩に比し一千萬兩の増加を見たのは、支那時代となつてもその貿易が順調に進んだのを知ることが出来る。そして諸外國との取引中、我が國との貿易は年々其の六七割を占めて居る状況である。之によつて見ると青島の將來は日本と最も關係深き貿易港として、はた工業地として發展を遂げるることが出来ると思はれる。

### 第三節 第三種の都市

所謂第三種の都市とは、支那固有の都市に歐米式都市の構造を加味したもので、歐米の影響の及ぶ程度によつて差異あること勿論である。即ち鐵道沿線の都市や港、殊に首府北京及び開市場<sup>(35)</sup>に於ては最も多く其の影響を受けて居るのであ

る。北京に於ては東交民巷<sup>36</sup>の如き外國公館地域は純然たる歐風の一劃をなし、その他官衙・學校・病院・飯店（Hotel）等には歐風建築が多く、道路・電車路・公園の築造より店舗の飾附に至るまで、漸次歐米風になりつゝある。開市場の外人に開放せられた地域<sup>(37)</sup>は何れも舊城市の外側に位するから、その區域の繁榮の程度により、各都市各々その趣を異にするのであるが、何れも舊城市の接續市街として發達せるものと見ることが出来る<sup>(38)</sup>。

茲には此種都市の一例として上海について略説する。上海は上古戰國時代楚の相、春申君の封邑であつたから、今も上海の一名を申江又は申城といふ。別名亦滬域といふ。滬とは水邊に竹を列ねて漁る我が網代の類である、これは蓋し往昔漁村たりしを意味する。宋神宗熙寧七年（西紀一〇七四年）市舶提舉司及權貨場を置き入港船舶貨物に課税したことから見ると當時既に相當の港であつたと思はれる。元世祖至元二十九年（西紀一二九二年）上海縣を初めて設けたが未だ城壁は造







開かれたのであるが、英國は一八四五年租界を定めた。その地域は元の英租界の東部、即ち黃浦江の支流蘇州河口の南岸附近所謂バンド Bund で、北界は今の北京路、西界は今の福建路、南界は洋涇濱（今の佛租界との界、愛德華第七世路、これは元河であつたのを埋立てたものである）、東界は黃浦江岸に及んで居つた。當時この區域は沼澤濕地多く、河溝が縦横に走つて居つた。イギリスでは此の地に領事館を設けて居留地を經營し、英商も次第に來つて茲に商館・倉庫等を設け、一八四八年には租界を擴張した。一八四九年には英人百餘名を算し一の教會堂があつた。

一八四九年四月六日フランスは縣城と英租界との間の地域を租界とし、その後一八五三年、一八九三年、一九一三年に次第に西方に擴張して現在の地域となつた（面積二方哩餘）。

アメリカ合衆國は一八四四年支那と通商條約を結び、次で一八四八年虹口に租界を得た。この租界は一八六三年英租界と合併して共同租界とし、一八九三年には共同租界の擴張行はれて現在の地域となつた（面積<sup>2.5</sup>方哩）。

長髮賊の亂（一八五一—一八六四年）には上海亦其の害を受けたが、租界内はよく之を防いだので、支那人は租界内の安全地域なるを知り、其の後茲に居住するものが次第に多數に上つた（40）。

以上の如くして上海は發達したのであるから、市街の構造は租界の内外により著しく異なるは勿論である。

城内即ち舊縣城は元、周圍九支那里の城壁をめぐるし十個の城門によつて外に通じ、城内の街衢はこの門を連ねて稍不規則であるが、大體東西南北に碁盤目状をなし、又城内には三個の小流の黃浦江に通ずるものがあり、外濠もあつたが、一九一四年交通を便にするため、城壁を破壊し、小流及び外濠を埋め、城壁・外濠の埋立地を道路となし電車を通じた。市街の構造は純支那式のもので、道路の如



きも狹隘、且概ね石を舗きつめてあるが修理は不完全である。この區域は商業地域・住宅地域である。

共同租界及佛租界の街路は黄浦江岸に竝行するものと、之にほぼ直交するものとの組合せより成り、稍不規則であるが大體直角式と稱することが出来る。兩租界共に歐米式都市に劣らぬ施設をなし(41)、家屋は多くは赤煉瓦又は石造の洋風建築又は支那風建築で、何れも工部局の建築條例に従つて建築してゐる。ことに舊英租界のバンド附近、即ち租界の最古の部分に於て會社・銀行・税關・領事館・ホテル等の壯大なる洋風建築の巍然たるを見るのである。道路は四等に分ち(42)その主要なるものは歩道・車道に分ちて整備し、電車(43)縦横に通じ、各所に公園を設けて居る。租界の黄浦江に臨むところは右岸浦東の沿岸と共に埠頭地域をなし、バンドを中心として(44)、江岸に多數の碼頭 Wharf が竝んで居る。こゝが全支那貿易の約四割の貨物出入の場所である。

共同租界の中部・北部及び佛租界の東部は商業地域で、殊に共同租界の中部の南京路(太馬路)・北京路・漢口路・福州路(四馬路)・廣東路・四川路・江西路・河南路・福建路等はその最も著しい部分である。

共同租界東部の黄浦江岸(楊樹浦)及び西部の蘇州河岸附近は工場地域で、紡織・製粉・製革・製麻・製糸等の大工場が多い。

共同租界の西部と佛租界の大部分の地は江岸より稍高燥で且稍遠ざかつて居るので住宅地域となつてゐる。

南市は黄浦江岸は碼頭をなし倉庫・汽船會社(内地通ひ)・問屋等多く、南端に滬杭甬鐵路の車站及び江南機器局がある。この部分は工業地域として適當な條件を具備して居るから將來その方面に發展することゝ思はれる。

浦東の黄浦江岸にも多數の碼頭があつて主として貨物の揚卸をする。但し浦東の突出部(陸家嘴)は江の屈曲の内方にある所謂滑走斜面であるため對岸のバン



下方面よりも浅いから、この突出部より遠ざかつて南方と東方とに碼頭の多いのは河の自然に従ふ當然の分布である。この地域は工場地域として現在も二三の工場が設けられてゐるが、將來益々發展するであらう。

閘北には滬寧鐵路の車站があつて陸上交通の重要地域たると共に、土地稍高燥であるから住宅地域である。在留邦人の租界内の商業地域等に勤務するものなどの住宅が多いのは此の邊である。

以上の如くにして、上海は西及北の部分は稍土地高燥であるが大部分は低地に位置し、黄浦江が屈曲して蘇州河を合せる地點に於て、上海縣城を核心として主に其の北方に發達せる河港であつて、楊子江流域なる支那第一の豊富な後背地 Hinterland を有するから、僅々八十年間に異常なる發展を遂げ、其の人口に於てはた其の貿易に於て、工業に於て、支那第一の地歩を占むるに至つた市街である、何故に上海が揚子口に位置せずして、却て江口の吳淞より約二十軒を距つる今の

地點に發達したかといふ原因を考察すると、これは一八四二年の當時、江口及び其の附近に於て只上海縣城のみが相當發達した港市をなして居つたから、この地點、しかも黄浦江が大屈曲をつくつて居る凸面の頂點附近即ち水深最も大なる城北のバンドの邊が租界として選定せられたものであると思はれる。而してその後には汽船の發達に伴ひ黄浦江が浚渫せられて上海港の職能を失はぬ様にとめられたので今日の上海港を見るに至つたのである。吳淞の如きは一八九八年支那の自開商埠となつて以來稍發達したが、しかし上海の外港として一九〇九年頃までは干潮時に上海に溯江し得なかつた船が碇泊したこともあつたが、今はその不便が除かれた。將來上海が次第に發展するにつれ吳淞との間の江岸が次第に工場或は商業地域として發展し行くものと考へられるのである。

(35) 支那に於ける開市場は其の數約百箇所である。阿片戰役(一八三九—四二年)の結果南京條約により廣州・廈門・福州・寧波・上海の五港を英國に開いて以來、幾回にもわ



たつて開いたものである。又支那自ら開けるものもある。即ち左の如し。

(China year book 1924. pp. 681-683)

一、條約により列國に開けるもの

- a 開港場 四八
  - b 開市場 一一
  - c 貨客の揚卸を許すもの 揚子江岸五、珠江岸六
  - d 旅客のみの乗降を許すもの 揚子江岸四、珠江岸一〇
- 二、支那自ら開けるもの(自開商埠) 一一

(36) 東交民巷は東は崇文門大街より西は兵部街及戸部街に及び、北は東長安街、南は内城々壁を限る一區、即ち正陽門内の東北に位する部分で、一九〇〇年の北清事變に鑒みその翌年の條約により一切支那人の居住を禁じ、列國共同の行政地域とし列國公館の所在地となつて居る、公館以外私人の住所・事務所等もある。

(37) 開市場中特に租界 (Settlements and Concessions) を有するもの十七に及ぶ。その中に、專管租界・共同租界の並立するものと(上海の如く)、專管租界のみのもの(天津の如く)とがある。China year book 1924. pp. 684-685. に一覽表がある。

(38) 滿洲に於ては、奉天の如く舊城の西方に開埠地があり、更にその西方に滿鐵附屬地があつて行政的には異なるが、やはりこの例に漏れぬものと云つてよい。

(39) 沿革は主として「同治上海縣誌」によつて略記した。尙城壁を破壊して電車を通ぜしめたものは天津も同じで、廣東では自動車を通じてゐる。これ等は民國となつてから舊物破壊思想の一表現である。

(40) 租界の沿革は主として C. A. Montakode Jesus; Historic Shanghai (1909) によつた。長髮賊の亂中には二十五萬人の支那人が租界内に居つた。戦後一時其數は減じたがその後又次第に増加し、一九二〇年の調査によると、租界内の外人は約三萬、支那人は約九十二萬六千人である。尙一九一六年一月支那警察の調査によると租界外の支那人五十八萬五千七百人といふことである。即ち大上海の人口は百五十萬といふことになる(大正十年刊外務省通商局の「在上海帝國總領事館管内狀況」による)。

(41) 共同租界に於ては、租界内の外人中一定の納稅資格者を以て組織する公民會が立法權及豫算決算議決權をもつて居る。司法は會審衙門及領事裁判所之を行ひ、行政は



工部局 (Municipal Council) 之を行ふ。工部局の經營する主なる事業は警察・消防・道路・衛生・電燈・水道・教育・公共娛樂機關 (公園・運動場・音樂隊等) である。佛租界もフランス人によつて大體同様の組織の下に同様の事業が行はれて居る。

(42) 一等道路は木煉瓦を敷き、二等道路はアスファルトと碎石とを混じて造つたもの、三等道路は地下二尺の所に一面に割石を敷き、其上に小砂石・粘土・砂を置き壓して乾かした上にアスファルトを塗つて、更にその上に砂及び石粉を敷いたもの、四等道路は大小の石を敷いたものである。

(43) 電車は私營で左の三會社がある。

- 1 上海製造電氣有限公司 (英會社、一九〇八年三月より開業、共同租界内にあ  
る電車の經營)
- 2 佛租界電車公司 (佛會社、一九〇三年設立、佛租界内にある電車の經營)
- 3 上海華商電氣有限公司 (支那會社、一九一二年より開業、城内及南市の電車  
を經營する)

(44) バンドは黄浦江が南から東にほぼ直角に屈曲する最も水深の大なる部分にあたる。

かゝる地點が河港として選ばれるのは普通の例で、支那の河港では營口の如きはこ  
の類例である。上海ではこの屈曲部へ西方から蘇州河注入して奥地からの農産物等  
が民船によつて茲に運ばれる。

(45) 上海港の區域は、黄浦江の上流江南機器局ドック南側から、下流スタンダード (美  
孚) 石油會社棧橋に至る長さ約十哩の區間で、更に之を三區に分つて居る。中區は  
租界内で最も重要な地點である。河の幅員は千乃至二千呎、水深干潮七呎乃至八  
呎、滿潮二十二呎乃至二十三呎である。港内の管理權は支那稅關の一局たる港務局  
に屬し、租界は何等の權利をもたない。

上海の發展のために黄浦江の浚渫問題は當然起るべきものである。これ凡ての河  
港に共通の問題である。一八七四年から其の議、上海の外人間に起つたが、水路は  
支那政府の管理下にあるため外交問題となり、一九〇五年遂に之が實行を見、一九  
〇六―九年に黄浦江口附近の淺瀬 (Inner bar) を浚渫して水深二十一呎、河幅七百  
呎とした爲、大船は吳淞に碇泊して滿潮を待つことなく直ちに上海に入り得ること  
となつた。其後一九一二年黄浦江水路改修局 (Whampoo Conservancy Board) 設け



られて改修工事を續行し、河幅最狹九百呎、最淺二十呎とすることとした。しかしこの水深は尙不足であるので將來は少くとも十米以上の水深を保たしめる必要があることは「濬浦總局一九二一年上海港口技術委員會報告書(譯件)第六頁にも述べた通りである。更に黃浦江のみならず揚子江口南水道の Fairy Flats と稱する長さ三十哩に互る淺瀬(干潮時の水深十六呎、滿潮時二十呎)を切開くことも必要となつてくるので中々大問題である。

所謂上海築港案として現今次の二案が考慮されて居る。

- 1 松江・太湖間に運河を開き、太湖より江陰に出る運河を浚渫し、揚子江の水を是等運河によつて黃浦江に流出せしめて十米以上の水深を保たんとする案
- 2 上海・吳淞間に水閘を設け黃浦江を船渠の状態となしてこの水深を保たんとする案

然し以上の如きことの實現されるのはよほど遠き將來といはねばならぬ。

(終)

## 索引



廈門	〔ア〕	四二、二七	大筏	〔オ〕〔テ〕	三七	廣東	三九、四一、二七
阿爾金山脈	二〇	温州	三七	漢陽	三四	漢陽	三四
アルタイ山系	二五	溫帶性氣候	五	咸陽	三	漢冶萍煤鐵公司	四六
安慶	二〇	〔カ〕		北支那の氣候	四	〔キ〕	
鞍山鐵山	四九	海運	二七	北支那の地形	一八	北支那の都市	一〇〇
安東	四〇	海南島	四	北支那の都市	一〇〇	基督教	六
〔イ〕〔キ〕		開封	三	基督教	六	金嶺鎮鐵山	一四八
渭水	三	開平炭坑	一五〇	宜昌	三、三二	九江	一三〇
一輪車	一七	開灤	一五〇	九江	一三〇	〔ク〕	
尹	一八三	海蘭線	一六七	庫倫	七五	庫倫	七五
陰山脈	二	華僑	八二	回族	六五	回族	六五
〔ウ〕		賀蘭山脈	三	九江	三五	九江	三五
雲貴高臺	二六	漢口	一三四	〔ケ〕		京漢線	一六一
鬱江	三六	函谷關	三	京漢線	一六一		
雲南	一三七	寬城子	九五				
〔エ〕〔キ〕		河運	一七四				
營口	四〇	漢族	六				
粵漢線	一六四						

桂江	三六	滬杭甬線	一六六	支那本部の地形	一八
鷄公山	三五	梧州	三六	支那本部の都市	一〇〇
京綏線	一六七	滬寧線	一六五	四川盆地	一八、八三
京奉線	一六六	ゴビ沙漠	一六	四平街	一七〇
桂林	一三七	米	一四二	淄川炭坑	一五
驕車	一七三	崑崙山系	八	自然流	三
〔コ〕		〔サ〕		戎古船	二、三五
黃河	三〇	濟南	三、一〇一	札薩克	一八四
江湖山地	二七	柞蠶	一四	上海	一三三、一六三
黃土層	三三	雜穀類	一四	沙市	一三三、一三一
廣九線	一六四	三峽	三〇	儒教	一三
鑛業	一四六	山東山塊	三〇	常德	一三
工業	一四六	山東鐵道	一六七	珠江	一六、八一
杭州	一三二	三民主義	一七	自由港	八九
膠州灣	一四	サヤン山脈	一五	重慶	二九、三二
高粱	一四	〔シ〕		叙州	元
湖廣平野	一三	支那山系	六	徐州	一六七
國務院	一八三	支那本部の氣候	五	瀟湘八景	一三
五卅事件	一七	支那本部の人口	六	省長	一八三



新疆の氣候 ..... 一六  
 新疆の人口 ..... 一三  
 新疆の地形 ..... 一〇  
 侵蝕平野 ..... 二七  
 秦皇島 ..... 一五  
 津浦線 ..... 一六五  
 人力車 ..... 一七三  
 〔ス〕  
 水産業 ..... 一四  
 水運 ..... 一七四  
 綏遠 ..... 一七  
 崇明島 ..... 一五  
 錫 ..... 一四  
 汕頭 ..... 一四、一七  
 〔セ〕  
 西安 ..... 一三  
 西河 ..... 一三  
 西江 ..... 一八  
 西寧 ..... 一四

清化 ..... 一六  
 青海の氣候 ..... 一四  
 青海の人口 ..... 八三  
 青海の地形 ..... 一〇  
 政權の推移 ..... 一七五  
 成都 ..... 一三  
 政治組織 ..... 一八三  
 正太鐵道 ..... 一六  
 石家莊 ..... 一六  
 石炭 ..... 一五  
 赤壁 ..... 一三  
 石油 ..... 一四  
 石灰窑 ..... 一四  
 仙霞嶺山脈 ..... 一七  
 〔ソ〕  
 双十節 ..... 一七  
 總長 ..... 一八  
 楚西山地 ..... 一六  
 蘇州 ..... 一〇

〔タ〕  
 太原 ..... 一〇、一〇一  
 大興安嶺山脈 ..... 一五  
 大總統 ..... 一八  
 大豆 ..... 一四  
 大別山脈 ..... 一八  
 大冶鐵山 ..... 一三、一四  
 大陸性氣候 ..... 一四  
 大連 ..... 一四、一七  
 塘沽 ..... 一四  
 打箭爐 ..... 一四  
 タクラマカン沙漠 ..... 一  
 タリム盆地 ..... 一  
 〔チ〕  
 知事 ..... 一八  
 チベット族 ..... 一七  
 チベットの氣候 ..... 一四  
 チベットの人口 ..... 一八  
 チベットの地形 ..... 一七

茶 ..... 一四  
 重慶 ..... 一三  
 中部支那の氣候 ..... 一三  
 中部支那の地形 ..... 一六  
 中部支那の都市 ..... 一六  
 張家口 ..... 一〇  
 長春 ..... 一五  
 長沙 ..... 一三  
 潮州 ..... 一七  
 地壘山脈 ..... 一〇  
 鎮江 ..... 一〇  
 鎮守使 ..... 一八  
 青島 ..... 一三、一四  
 芝罘 ..... 一四  
 ヤエンガル盆地 ..... 一三  
 〔ツ〕  
 通遼 ..... 一七  
 〔テ〕  
 鄭州 ..... 一三

鐵道 ..... 一四  
 鐵道 ..... 一五  
 滇越鐵道 ..... 一六  
 天山山系 ..... 一〇  
 天山南路 ..... 一三  
 天山北路 ..... 一三  
 電車 ..... 一七  
 天津 ..... 一四、一〇、一〇  
 〔ト〕  
 潼關 ..... 一三  
 東江 ..... 一六  
 道口鎮 ..... 一六  
 道教 ..... 一六  
 東支鐵道 ..... 一七  
 道清鐵道 ..... 一六  
 洞庭湖 ..... 一三  
 洮南 ..... 一七  
 道路 ..... 一五  
 督辦 ..... 一三

都統 ..... 一四  
 吐魯蕃地溝帶 ..... 一  
 敦煌 ..... 一三  
 〔ナ〕  
 南京 ..... 一三  
 南潯鐵道 ..... 一六  
 南嶺 ..... 一六  
 南昌 ..... 一三、一五  
 〔ニ〕  
 日支條約 ..... 一四  
 日支政治的關係 ..... 一三  
 日支貿易關係 ..... 一三  
 寧波 ..... 一三  
 〔ネ〕  
 寧海鎮守使 ..... 一四  
 熱帶性氣候 ..... 一四  
 農業 ..... 一四  
 〔ハ〕



包頭	二、一六六
博山炭坑	一五
馬尾港	三九
ハルク	三三、三四
ハルビン	九八
漢口	一三四
鄱陽湖	三五
苗族	六〇
皮筏子	二
ヒマラヤ山系	七
萍鄉炭坑	一五四
武漢三鎮	三三、三四
伏牛山脈	八
副總統	一八三
福州	三九、四一、三七
蕪湖	一三〇
撫順炭坑	一五三
武勝關	一九
武昌	一三四
佛教	六四
汾水	三
北京	一〇一、一七〇、二四七
辦事長官	一八四
牧畜	一四四
北嶺	八
貿易	一五五
貿易港	一五六
本溪湖	一四九
坊子炭坑	一五一
奉天	九二
北江	三八
香港	四一
滿洲族	六九
滿洲の氣候	五三
滿洲の人口	八三
滿洲の地形	一七
滿洲の鐵道	一七〇
滿洲の都市	八七
南支那山系	七七
南支那の氣候	五三
南支那の地形	三八
南支那の都市	三六
南滿洲鐵道	一七一
閩江	三九
閩浙山地	七
無錫	一三〇
盟	一八四
蒙藏院	一八三

蒙古國民共和國	一八四
蒙古族	七〇
蒙古の氣候	五
蒙古の人口	八三
蒙古の地形	一四
蒙自	一六九
ヤプロノイ山脈	一五
輸出品	一五
輸出品	一五
輸入品	一五
養蠶	一四
揚子江	二七、八〇
洛陽	三三
拉薩	六九、一八四
喇嘛教	六八、七四
藍關	一九
蘭州	三、一六六
犁牛	六七
林業	一四五
列國の有する利權	一八九
老開	一六
隴海線	一六七
蘆山	三五
瀘州	二九
淮山脈	一八
綿	一四三



昭和三年二月十五日印

刷

昭和三年二月十八日發

行

中華民國地誌

定價貳圓

著者

西田與四郎

發行者

東京市外西大久保四五番地

橋本福松



版權所有

印刷者

東京市本郷區眞砂町三六番地

左手薰

發行所

東京市外西大久保四五番地  
振替東京三五三〇番  
電話四谷五七五四番

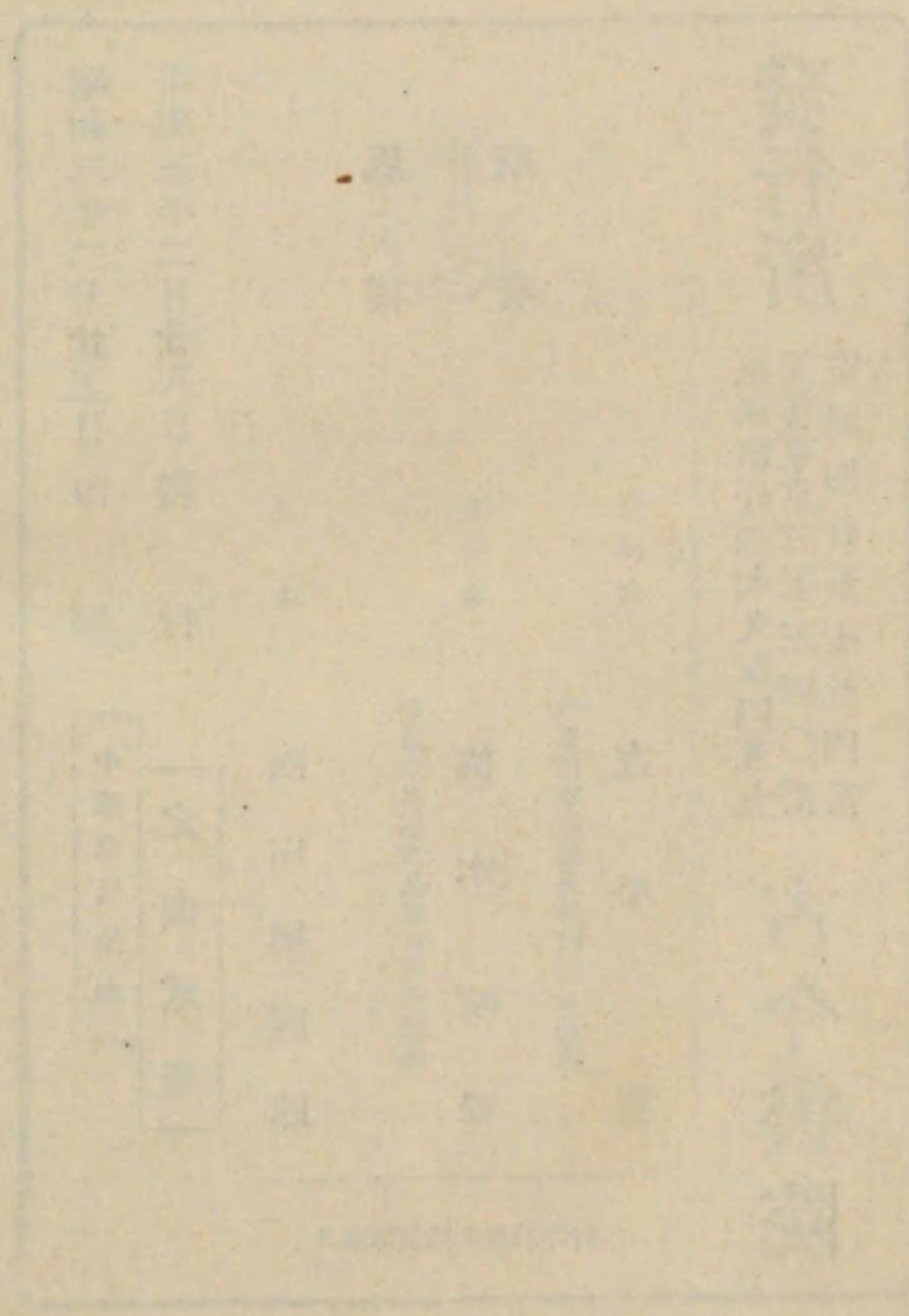
古今書院

行印社會式株刷印東日

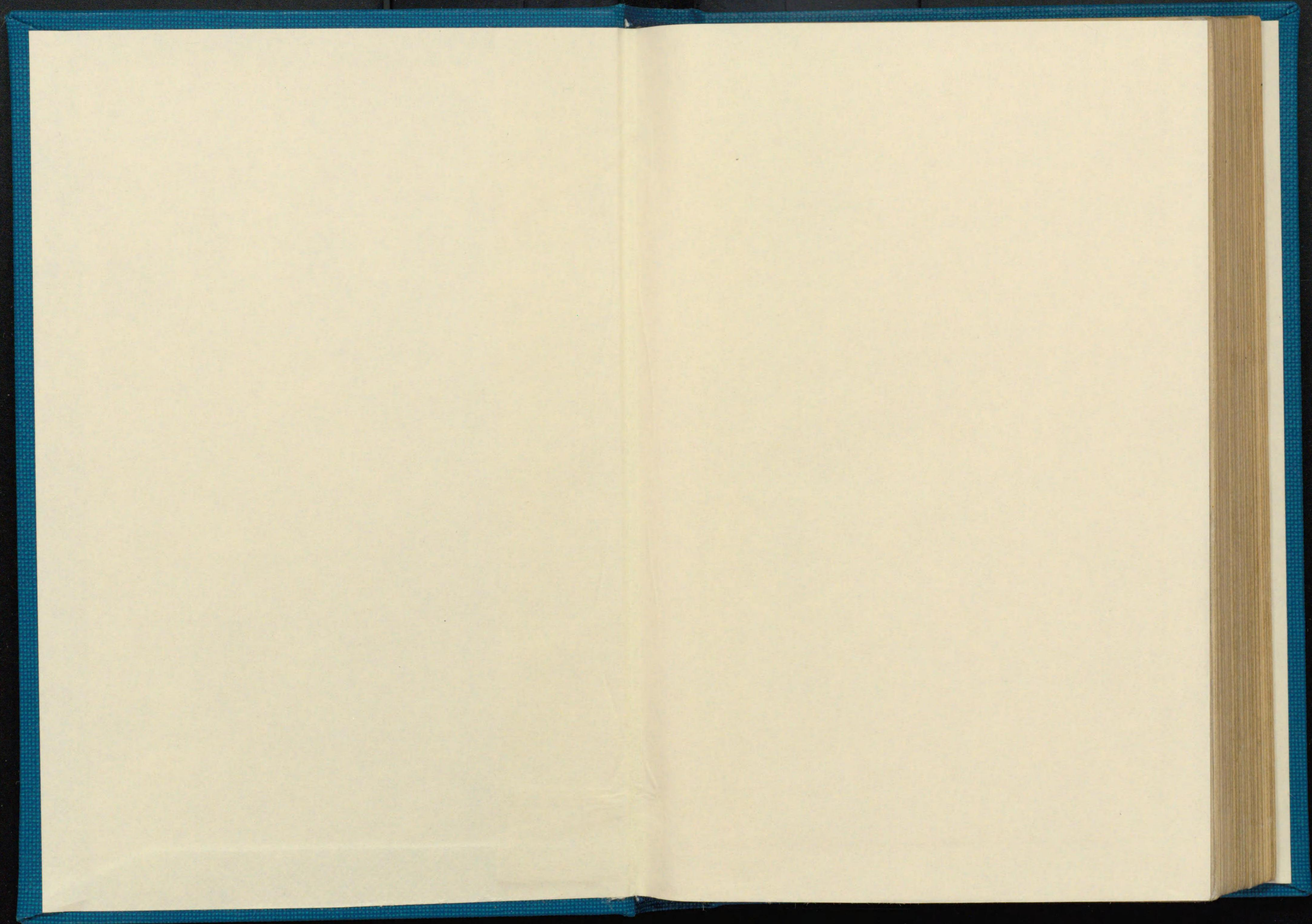


578-68

RI 45  
- 40











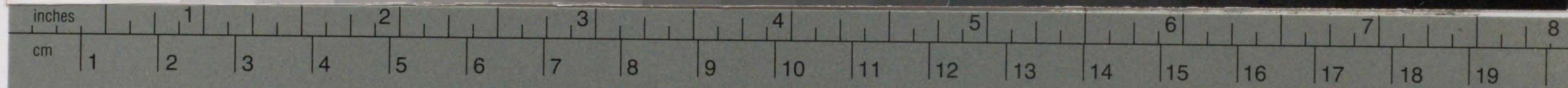


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

